学生の確保の見通し等を記載した書類　目次

１　学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況　ｐ．１

①　学生の確保の見通し　ｐ．１

ア　定員充足の見込み　ｐ．１

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要　ｐ．４

ウ　学生納付金の設定の考え方　ｐ．７

②　学生確保に向けた具体的な取組状況　ｐ．８

③　定員超過率が 0.7 倍未満の既設学科における学生確保に向けた

具体的な取組状況（通信教育課程）　ｐ．８

２　人材需要の動向等社会の要請　ｐ．９

①　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）　ｐ．９

②　上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの

客観的な根拠　ｐ．１０

学生の確保の見通し等を記載した書類

（１）学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

①　学生の確保の見通し

ア　定員充足の見込み

本研究科・博士後期課程は本学や他大学の修士課程修了者（見込みを含む）を広く受け入れることとするが、きめ細やかで質の高い研究指導を行うため、本学や他大学の大学院（博士後期課程）の入学定員に対し比較的少ない入学定員4人（収容定員12人）とする。この入学定員について長期的かつ安定的に学生確保できる見通しがあることを以下に説明する。

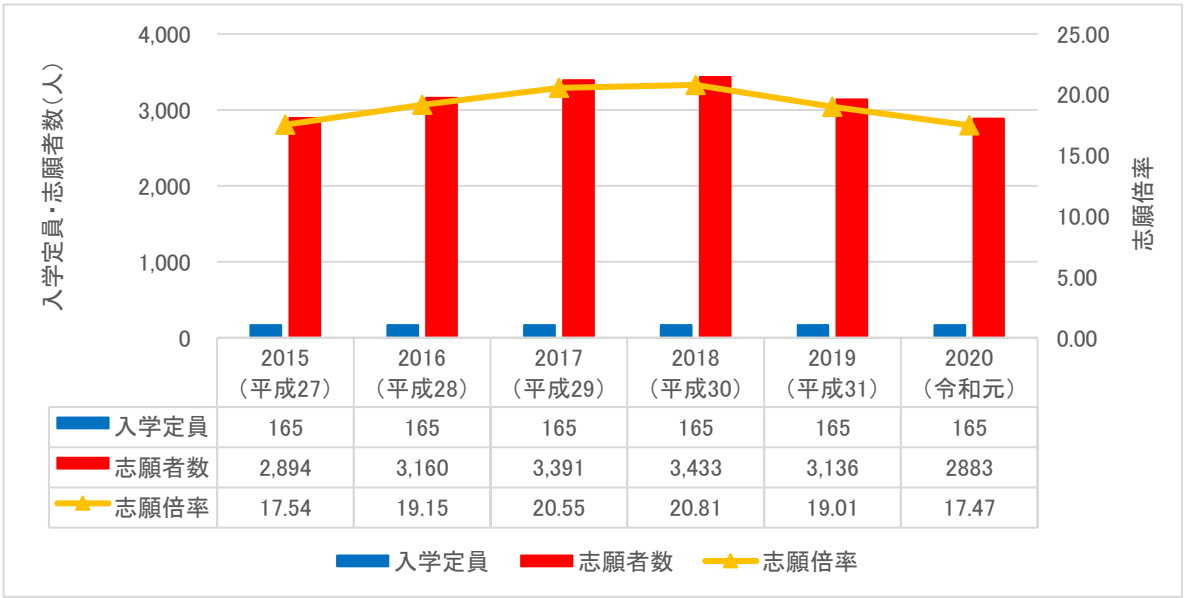
ａ．法政大学の社会的評価（ブランド力）

明治 13 年に東京法学社として創設されて以来、本学は常に社会の動きに即応した進化を続けてきた。建学から今日までの歴史をたどり確認されるのは、「自由と進歩」の精神がその歩みを一貫して導いてきたということである。本学が目指してきたのは、＜社会の進歩を担う自由な個＞、つまりは＜自立型人材＞を、社会に開かれた場として養成することである。（株）リクルートマーケティングパートナーズが実施した「進学ブランド力調査 2019」によると、関東エリア 308 校のうち本学の志願度は第 5 位、文理別の志願度は文系で同じく第 5 位と上位に位置している。この調査からは、本学の教育研究が社会的に大きく評価されていることがうかがえる。事実、大学院研究科の基礎となるスポーツ健康学部の直近 5 年間の志願者数・志願倍率は表 1 に示すものであり、高止まりしている。

これらの評価は、本学の「自由と進歩」の理念のもと教学改革に取り組む姿勢が社会に注目され、理解と賛同が得られた結果であり、本学に対する社会的なニーズは極めて高いといえる。法政大学に対するこうした評価や注目は学部だけにはとどまらず、法政大学大学院の各研究科・専攻等における学生の確保に大きく資するものといえる。本研究科・修士課程については、開設以降の入学者数等は表 2 に示すとおりであり、定員を超える志願者数を確保している。

【資料１】（株）リクルートマーケティングパートナーズ「進学ブランド力調査 2019」

表１：法政大学スポーツ健康学部の直近 6 年間の志願者数



	2015（平成27）	2016（平成28）	2017（平成29）	2018（平成30）	2019（平成31）	2020（令和元）
入学定員	165	165	165	165	165	165
志願者数	2,894	3,160	3,391	3,433	3,136	2883
志願倍率	17.54	19.15	20.55	20.81	19.01	17.47

表２：法政大学スポーツ健康学研究科・修士課程（2016（平成 28）年度開設）の入学者数等

年度	2016 （平成 28）	2017 （平成 29）	2018 （平成 30）	2019 （平成 31）	2020 （令和 2）
入学定員	10	10	10	10	10
志願者数	10	11	21	11	16
受験者数	10	11	21	11	15
合格者数	8	9	14	9	12
入学者数	7	8	13	9	－

※2020（令和 2）年度は 3 月 18 日現在。

ｂ．近年のスポーツ健康分野の大学院設置状況と本研究科・博士後期課程の入学定員の見通し

日本スポーツ産業学会（2018）のまとめによると[1]、2016（平成 28）年度へ向けた入試時にスポーツ健康関連学部・学科を有する国立・公立・私立の大学数は全国で 141 あり、2017（平成 29）年度へ向けた入試時では 153、2018（平成 30）年度へ向けた入試時では 164 へと増加している。

その中で、大学院研究科の設置状況をみると、修士課程を有する大学は多いとはいえず、博士課程を有する大学はさらに少ない。例えば 2018（平成 30）年度の関東圏でみた場合、スポーツ健康関連学部・学科を有する国・公・私立大学は 49 を数えるが、その中で、大学院修士課程（博士前期課程を含む）を有するのは 17 大学（34.7%）であり、博士課程を有するのは 10 大学（20.4%）にとどまっている。つまり、関東圏においてスポーツ健康関連学部・学科を有する大学への進学希望者が将来に博士課程を目指すとすれば、すでに約 5 分の 1 の大学数に限られていることになる。そして近年では、例えば立教大学・コミュニティ福祉学研究科・スポーツウエルネス研究（2008（平成 20）年 4 月～）や、社会人を対象とした筑波大学・人間総合科学研究科・スポーツウエルネス学位プログラム（2016（平成 28）年 4 月～）のように他領域との複合型や専攻内における新たなプログラムとしての博士課程の設置はみられるが、独立した新規の博士課程は増えていない。他方、関西圏をみた場合でも、立命館大学・スポーツ健康科学研究科（2010（平成 22）年 4 月～修士課程、2012（平成 24）年 4 月～博士後期課程）、同志社大学・スポーツ健康科学研究科（2010（平成 22）年 4 月～修士課程、2013（平成 25）4 月～博士後期課程）、関西大学・人間健康研究科（2014（平成 26）年 4 月～修士課程、2016（平成 28）年 4 月～博士後期課程）等、比較的最近において複数の有力私立大学が博士課程を設置しているが、関西圏内全般をみればやはり少数にとどまっている。国家的なレベルにおいてスポーツ・健康に対する研究力の底上げを目指すためには、博士課程において専門性を高める人々の数を増やし、相互に切磋琢磨しながら研究力の向上を図っていく必要があると考えられる。

以上のような状況の中、社会的評価の高い法政大学に位置づくスポーツ健康学部の発展形として、修士課程に止まらずに博士後期課程を設置することはむしろ当然の使命と考える。

実際、2009（平成 21）年度に開設したスポーツ健康学部から初の卒業生を輩出した 2013（平成 25）年度以降、他大学の大学院修士課程へ進学した者は毎年 2～4 名は存在し、その後さらに他大学の博士課程に進んだ者も毎年 1～2 名は存在する。そして、2016（平成 28）年度に開設した本研究科・修士課程を修了してから 2018（平成 30）年 4 月に他研究科の博士後期課程へ進んだ修了生が 1 名存在する。なお、2018（平成 30）年度および 2019（平成 31）年度における本研究科・修士課程の在学生に対する博士課程

[1] 『スポーツ産業学研究』28-4「スポーツ関連大学の入試情報一覧」、日本スポーツ産業学会、2018、pp. 377-382.

進学への意向調査の結果については後項にて詳述する。

次に、本研究科・博士後期課程の入学定員数を 4 名（収容定員 12 名）とする点について述べる。本学部の入学定員 165 名および本研究科・修士課程の入学定員 10 名は、博士課程を有するスポーツ系の私立大学の中では全国的にみて最小規模となり、その点でみれば、関西大学・人間健康研究科の博士後期課程の入学定員 3 名、同志社大学・スポーツ健康科学研究科の博士後期課程の入学定員 3 名＋若干名（社会人特別入試による）が参考になる。本博士後期課程も社会人入試を導入・実施することから、入学定員は社会人を含めた 4 名とするのが妥当であると判断した。なお、表３に、参考となる他大学の博士後期課程の定員一覧を示す（2019（平成 31）年度）。表３については、本研究科の教育研究領域と同内容を有している点から参考とした。

また、表４に、参考となる他大学の博士後期課程の過去 3 年間における入学者（志願者）数を示す。表４については、特に私大に関しては研究科の基礎となる学部の偏差値・難易度が本学スポーツ健康学部と近い点から参考とした。

表３：本研究科の参考となる他大学の博士後期課程の定員一覧

大学・研究科	専攻	博士前期（修士）課程（名）	博士後期課程（名）
筑波大学 人間総合科学研究科	体育学	115	－
	ｽﾎﾟｰﾂ健康ｼｽﾃﾑﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	24	－
	体育科学	－	15
	スポーツ医学	－	10
	コーチング学	－	5
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学位ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ	－	若干名
早稲田大学 スポーツ科学研究科	スポーツ科学	140	30
順天堂大学 スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学	61	10
国士館大学 スポーツ・システム研究科	スポーツ・システム	30	3
日本体育大学 体育科学研究科	体育科学	25	6
	コーチング学	15	3
立命館大学 スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学	25	8
同志社大学 スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学	8	3
関西大学 人間健康研究科	人間健康	10	3

表４：本研究科の参考となる他大学の博士後期課程の入学者（志願者）数

大学	研究科・専攻	入学定員	2017 年（平成 29 年）	2018 年（平成 30 年）	2019 年（平成 31 年）
筑波大学 人間総合科学研究科	体育科学専攻	15	15 (20)	16 (26)	15 (24)
	ｽﾎﾟｰﾂｳｴﾙﾈｽ学位ﾌﾟﾛｸﾞﾗﾑ専攻	若干名 ※募集定員	3 (7)	3 (7)	1 (3)
	スポーツ医学専攻	10	10 (10)	9 (11)	14 (21)
	コーチング学専攻	5	8 (10)	8 (15)	7 (13)
早稲田大学 スポーツ科学研究科	スポーツ科学専攻	30	22 (—)	27 (—)	29 (—)
順天堂大学 スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	10	9 (—)	20 (—)	21 (22)
同志社大学 スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	3	1 (2)	3 (3)	0 (1)
関西大学 人間健康研究科	人間健康専攻	3	— (—)	— (—)	4 (5)
立命館大学 スポーツ健康科学研究科	スポーツ健康科学専攻	8	— (—)	— (—)	4 (4)

※各大学ホームページより。

※（ ）は志願者数。不明なものはーとして表示。

表４より、博士後期課程の定員に対する入学者数は、筑波大学、順天堂大学、関西大学において比較的安定して充足されているとみられるが、なかでも筑波大学・人間総合科学研究科においては各専攻で毎年、志願者数が定員を上回っている。本研究科・博士後期課程における学問領域（ヘルス・マネジメント・コーチング）は、筑波大学のスポーツ医学専攻、体育科学専攻、コーチング学専攻における学問領域の一部と重なるものであり、その意味で、本研究科・博士後期課程が設置されれば、筑波大学・人間総合科学研究科における上記専攻群との併願は期待できるところであろう。事実として、本研究科・修士課程が設置される 2016（平成 28）年度より以前において筑波大学・人間総合科学研究科修士課程へ進学した本学学部卒業生は毎年１名以上あり、現在も１名が同研究科博士後期課程に在学中である。

イ　定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

法政大学大学院の全研究科では、毎年修了生に対するアンケートを実施しており、2018（平成 30）年度におけるスポーツ健康学研究科・修了生の「大学院に対する満足度」をみた場合、肯定的回答（「そう思う」＋「いくらかそう思う」の割合）は 87.5%であり比較的高いといえる。さらに、同アンケートの「法政大学大学院を（他者に）勧めたいとおもいますか」との質問に対する肯定的回答は 75.0%あり、修了生の本研究科に対する満足度は概ね高いことから、博士後期課程の設置に対しても否定的な風評を

生むことにはならないと予想される。そのうえで、本研究科・博士後期課程に関して実施したアンケート調査結果について、以下に説明する。

ａ．本研究科・修士課程在学者に対するアンケート調査

博士後期課程の入学者確保の見通しを立てるため、2018（平成30）年7月および2019（令和元）年9月に既設の修士課程（スポーツ健康学研究科）の在学者・計30名を対象とし、博士後期課程に対する興味・関心、進学希望等を調査した。その結果、「あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じますか」という設問に対して、36.7%が「あてはまる」、13.3%が「おおいにあてはまる」と回答し、合わせて50.0%の者が魅力を感じていることが明らかとなった。博士後期課程進学に興味を持つ理由については、「専門的知識をさらに高めたいから（65.2%）」、「スポーツ界の発展に貢献できると思うから（52.2%）」、「さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから（34.8%）」等に比較的多い回答が得られた。このことから、特に「高度な知識や理論の確立」と「スポーツ界や社会への貢献」が博士後期課程進学の大きな理由になっているものと考えられる。本研究科・博士後期課程への進学希望を尋ねたところ、「進学してみたいと思う（13.3%）」と「少し進学してみたいと思う（33.3%）」を合わせると、希望者は46.6%（14名／30名）に上る結果となり、内部の修士課程から毎年1～3名程度の博士後期課程進学者を予想するに至った。さらに、「法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合の進学希望の理由」という設問に対して「４：少し進学してみたい」と回答した者（計10名）の理由を見ると、「博士課程に進学を考えているから」「高度な指導方法を修得したい」「より専門性を高めたい」「法政大学はスポーツ健康学研究科以外との連携を望め、様々な分野を複合した研究に可能性を感じるため」「スポーツ心理学を深く学び、メンタルトレーニングの指導を確立させたい」、「研究能力をさらに向上させたいと思う」等、かなり積極的・前向きな回答が目立った。このことから、「４：少し進学してみたい」から「５：進学してみたい」への意欲のアップはありえると思われる。博士課程の規模、指導体制、カリキュラム等の具体像が不明の時点での質問と回答であるため、「５：進学してみたい」と断言することを躊躇している傾向はあると思われる。また、「４：少し進学してみたい」において「学費面が心配」という理由を挙げている回答があるが、本学には修学支援を目的とし大学院博士後期課程在籍者を対象とした給付型の研究助成金制度（文系研究科は300,000円、理系研究科は450,000円（いずれも年額）、2020年度以降はそれぞれ320,000円、480,000円に増額予定）があり、これが本研究科の学生にも適用されインセンティブが高まることを知れば、また変化する可能性もある。以上のことから、「４：少し進学してみたい」あるいは「３：どちらともいえない」と回答している者も含めて実際に進学する可能性はあると捉えられる。

表５：スポーツ健康学研究科修士課程在学者（30名）への調査結果（概要）

調査項目	回答	
「あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じますか」	おおいにあてはまる	13.3%（4名）
	あてはまる	36.7%（11名）
「もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか」	進学してみたいと思う	13.3%（4名）
	少し進学してみたいと思う	33.3%（10名）

【資料２】大学院博士課程に関するアンケート結果（スポーツ健康学研究科・修士課程在籍者対象）
【資料３】大学院博士後期課程研究助成金給付規程（2019年4月1日現在）

ｂ．他の組織・団体の所属者（社会人）に対するアンケート調査

2019（令和元）年 11 月に法政大学以外の他の組織・団体に所属する「社会人」に対して、本研究科・博士後期課程への進学希望調査を実施した。対象は、中央競技団体（3 団体）、マスコミ企業（2 社）に勤務する者、日本スポーツ協会公認アスレティックトレーナー養成の指導に携わっている者であり、すでに修士号を有している 15 名に限定した。

その結果、「あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じますか」という設問に対して、13.3%が「あてはまる」、33.3%が「おおいにあてはまる」と回答し、合わせて約半数の 46.6%の者が魅力を感じていることが明らかとなった。博士後期課程進学に興味を持つ理由については、「専門的知識をさらに高めたいから（66.7%）」、「これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから（60.0%）」に比較的多い回答が得られた。このことから、特に「専門的知識を高める」と「経験を理論的に整理する」という点が、博士後期課程進学の大きな理由になっていると捉えられる。本研究科・博士後期課程への進学希望を尋ねたところ、「進学してみたいと思う（13.3%）」と「条件が合えば進学してみたいと思う（33.3%）」を合わせると 46.6%（7 名／15 名）となり、進学希望者の確かな存在が示された。そして、「進学希望の理由」を尋ねたところ、「５：進学してみたいと思う」と回答した 2 名の理由は、「高度で専門的な教員のもとで研究の実績を積み、広く社会に貢献できる素地をつくりたいから」、「最先端のスポーツマネジメントを習得し、研究者として持続的な社会貢献を行い、スポーツ界へ寄与する人材になりたい」であり、2 名とも研究者になることに「５：とても関心があり」、「3 年以内の進学を考えている」ことがわかった。また、「４：条件が合えば進学してみたい」と回答した者（計 5 名）の理由を見ると、「進学に興味がある」（2 名）、「興味はあるものの、職場の理解、業務量により状況は変わる」、「自立して学べる雰囲気がある。指導教員の人柄が魅力的、勤務先から近い」、「教授陣が魅力的で、博士課程の先進的な研究に期待できる」と回答しており、決定的なマイナス要因はみられない。社会人であるため、学習環境（場所、時間帯、施設等）や経済的事情が整えば、実際の進学に結びつく可能性は高いと捉えられる。本研究科の設置場所は多摩キャンパスであるが、利便性のよい市ヶ谷キャンパスでの授業や遠隔授業、また各期での集中授業を用意すること等により、学習環境条件は整うと考えられる。また、先にも挙げた博士後期課程の実質無償化やその他のインセンティブを高めていくことで個人的な経済事情はかなり緩和できると考えられる。

表６：他の組織・団体の所属者（社会人）（15 名）に対するアンケート調査（概要）

調査項目	回答	
「あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じますか」	おおいにあてはまる	33.3%（5 名）
	あてはまる	13.3%（2 名）
「もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか」	進学してみたいと思う	13.3%（2 名）
	条件が合えば進学してみたいと思う	33.3%（5 名）

【資料４】大学院博士課程に関するアンケート結果（社会人対象）

ｃ．他のスポーツ系大学の修士課程在学者に対するアンケート調査

2019（令和元）年 12 月に近隣地域にあるスポーツ系の他大学の修士課程に在学する者（当大学は博士

課程は有していない）９名に対して、本研究科・博士後期課程への進学希望調査を実施した。

その結果、「あなたは研究者になることに関心がありますか」という設問に対して、33.3%が「関心がある」と回答し、「あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じますか」という設問に対しては11.1%が「あてはまる」と回答した。博士後期課程進学に興味を持つ理由については、「専門的知識をさらに高めたいから（33.3%）」、「さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから（33.3%）」がやや目立つ回答であった。このことは、本研究科・修士課程在学者と同様、さらに研究を深めたいという意欲の表れであると捉えられる。本研究科・博士後期課程への進学希望を尋ねたところ、「条件が合えば進学してみたいと思う」が22.2%、「どちらともいえない」が同じく22.2%であった。そして、「条件が合えば進学してみたいと思う」と答えた者（2名）の進学希望理由は「働きながらでも大丈夫であれば行きたい」、「学問領域と教員による」であり、また、「どちらともいえない」と答えた者（2名）の進学希望理由は「興味のある研究室があるか不明のため」、「条件が合えば考えてみたい」であった。これらのことから、学習環境、学問領域、教員の特性等が明確になれば進学の可能性はあると予想できる。

【資料５】大学院博士課程に関するアンケート結果（他大学・修士課程在学者対象）

なお、以上の「ａ．本研究科・修士課程在学者」「ｂ．他の組織・団体の所属者（社会人）」「ｃ．他のスポーツ系大学の修士課程在学者」に対するアンケート調査結果から、「Q6：博士課程への進学希望時期」についてまとめると表７のようになる。

表７：博士課程への進学希望時期に対するアンケート調査

大学院博士課程への進学時期	回答	本研究科・博士後期課程へ進学したい
1. １年以内の進学を考えている	本研究科（1名）　社会人（0名）　他大学（1名）	2名
2. ３年以内の進学を考えている	本研究科（4名）　社会人（2名）　他大学（1名）	4名
3. ５年以内の進学を考えている	本研究科（1名）　社会人（0名）　他大学（1名）	1名
4. 時期は未定だが、大学院博士課程への進学を考えている	本研究科（4名）　社会人（2名）　他大学（0名）	6名

※「本研究科・博士課程へ進学したい」の人数は、「進学してみたい」および「少し（条件が合えば）進学してみたい」の人数。

このように、比較的少ない対象者の調査結果からも、本研究科・博士後期課程への継続的な進学者が見込まれる。繰り返しになるが、施設の充実、通学の利便性、遠隔授業の活用といった学習環境を整備すること、授業料・奨学金等に対するインセンティブを高めること、魅力ある教員組織づくり等々の努力を重ねることで、長期的かつ安定的に１学年４名の定員確保は可能であると思われる。

ウ　学生納付金の設定の考え方

本研究科の入学定員が少数（4名）であり、教員数に対する学生数比（S/T比）を少なくし、学生のニーズに応じたきめ細かく質の高い教育研究指導を行う体制を整備すること、また、他大学研究科の学費等の内容を総合的に勘案し、学生確保の観点から妥当な金額を設定した。

② 学生確保に向けた具体的な取組状況

スポーツ健康学研究科では、既設の本研究科修士課程の学生へ向けて博士後期課程に対する希望や意見聴取を実施した（2018（平成30）年7月、2019（令和元）年9月）。その際に実施したアンケート調査の結果は上記①のイ）に示したものである。その際、一部の学生からかなり強い設置に対する要望が出されたことを付記しておく。

また、本研究科・博士後期課程の担当予定教員は各々、各界における研究フィールドを有しており、そこには博士号取得を望む社会人が多く存在する。それらの人々へ向けて、博士後期課程設置の周知活動を今後活発に行っていく予定である。

【資料２】大学院博士課程に関するアンケート結果（スポーツ健康学研究科・修士課程在籍者対象）＜再掲＞

③ 定員超過率が 0.7 倍未満の既設学科における学生確保に向けた具体的な取組状況（通信教育課程）

通信教育課程に関しては，働き盛りの30～40代の社会人学生が多く在籍しているが，最近は20歳前後の若い世代の学生の入学も増加の兆しが見られる。また本学では2016（平成28）年に「ダイバーシティ宣言」を発し，性別，年齢，障がいの有無にかかわらず多様性を受け入れることを謳い，様々なバックボーンを持つ学生が通信教育部に入学している。人生100年時代の社会人の学び直しや生涯学習が盛んに言われる中，従来の通信学習のみならず，インターネットを媒体としたメディア授業の拡大や双方向教育の展開等によって，通信教育部は，学生の状況に応じて，いつでも・どこでも学ぶことのできる学習環境の提供をより一層強固なものとしている。

2013（平成25）年度より「通信教育部改革」と称し，カリキュラムを大幅に見直すとともに，メディアスクーリングの拡充，ゴールデンウィークスクーリングの新設，土日に開講する週末スクーリングの開設，新入生・在学生向けの学習ガイダンスの開催，e-mailを利用した学習相談，卒業生による個別相談会等，きめ細かい履修指導を継続的に実施している。特にITを活用したメディアスクーリングは，「通信教育部改革」前（2012（平成24）年度）には，28科目・延べ受講者数1,000名であったのに対し，2019（平成31・令和元）年度は80科目・延べ受講者数6,965名と大幅に拡大してきた。このメディアスクーリングはデジタルネイティブ世代から社会人現役世代までの学生に非常に好評を得ており，在学生アンケートの結果からも更なる拡充を求める声も多く聞かれる。このメディアスクーリングを「いつでも・どこでも学べる」学習方法の主軸として入学検討者にアピールし，入学者数の増加に繋がるよう取り組んでいる。

入学者を増やす他の施策としては，学内実施の入学説明会を継続して実施しており，通信教育協会主催の合同入学説明会にも積極的に参加し，東京近郊のみならず，札幌・福岡等の地方の入学者獲得にも力を入れている。これら入学説明会の本学来場者数は2017（平成29）年度には合計961名であったが，2018（平成30）年度は合計1,438名となり，増加傾向にある。また表５にあるとおり，入学者数も2018（平成30）年度には合計1,085名であったが，2019（平成31・令和元）年度には合計1,264名となり，約16%増となっている。新たな施策としては近年実施していなかった5大学（※）合同入学説明会を12月に開催するなど，入学者の増加・学生確保に取り組んでいる。

※5大学とは通信教育課程を日本で初めて開設した法政，慶應，中央，日本女子，日本大学の５つの大学である。

表８：法政大学通信教育部入学者数・在籍者数等の推移　（人数単位：人）

学部・学科		2016 （平成 28）	2017 （平成 29）	2018 （平成 30）	2019 （平成 31）	平均
法学部 法律学科	入学定員	3,000	3,000	3,000	3,000	－
	入学者数	218	177	227	307	232.3
	入学定員充足率	0.07	0.05	0.07	0.10	－
	在籍者数　※	1,385	1,274	1,232	1,182	1,268.3
文学部 日本文学科 史学科 地理学科	入学定員	3,000	3,000	3,000	3,000	－
	入学者数	271	276	345	366	314.5
	入学定員充足率	0.09	0.09	0.11	0.12	－
	在籍者数　※	2,046	1,865	1,871	1,821	1,900.8
経済学部 経済学科 商業学科	入学定員	3,000	3,000	3,000	3,000	－
	入学者数	401	412	513	591	479.3
	入学定員充足率	0.13	0.13	0.17	0.19	－
	在籍者数　※	2,269	2,102	2,143	2,201	2,178.8
合計	入学定員	9,000	9,000	9,000	9,000	－
	入学者数	890	865	1,085	1,264	1,026
	入学定員充足率	0.09	0.09	0.12	0.14	－
	在籍者数　※	5,700	5,241	5,246	5,204	5,347.8

※在籍者数は当該年度５月１日現在。入学者数・在籍者数ともに本科生のみ。

（２）人材需要の動向等社会の要請

①　人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的（概要）

本研究科・博士後期課程が養成の目的とする人材像は、「スポーツ・健康に対する俯瞰的な視野と柔軟な思考力をもってグローバル化に対応でき、最先端の理論と研究方法を駆使して高度で実践的な課題を解決できる研究力とマネジメント力を有し、豊かな人間性によるリーダーシップを発揮しつつ様々な領域の人材と協働できるスポーツ健康学高度開発者」である。

本研究科・修士課程では、①生涯を通じての積極的な健康づくりを支援する人材（ヘルスプロモーション）、②スポーツ産業等を高度に管理・運営することができる人材（スポーツマネジメント）、③競技スポーツや教育現場において高度な指導能力を有する人材（スポーツコーチング）等、高度専門的職業人の養成を目的としているが、博士後期課程では、修士課程との連続性を踏まえて、「高度専門的職業人を支援・指導できる研究者の養成」を目的とする。

博士後期課程修了時には下記の資質・能力を有することを教育研究上の目標とし、その他、所定の条件を満たした者に対して「博士（スポーツ健康学）」を授与する。

1.「スポーツ健康学」に関わる俯瞰的な視野と柔軟な思考力をもってグローバル化に対応できる能力（知識・思考・判断）

2.「スポーツ健康学」に関わるプレゼンテーション能力とディスカッション能力（思考・判断・表現）

3.「スポーツ健康学」に関わる最先端の理論と研究方法を駆使できる能力（知識・理解・技能）
4.「スポーツ健康学」に関わる多様な実践的課題を解決し、新たな展開内容・方法を開発できる能力（技能）
5.「スポーツ健康学」に関わる研究成果を積極的に社会に発信・還元できるとともに様々な領域の人と協働できる能力（関心・意欲・態度）

② 上記①が社会的、地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

ア 人材需要の動向

人材需要については、ヘルスプロモーション、スポーツマネジメント、スポーツコーチングの3領域で性格は異なるが、民間フィットネスクラブや総合型地域スポーツクラブをはじめとするスポーツ環境の充実、高齢社会等に起因した健康意識の高まり、「スポーツ基本法」（2011（平成23）年）とそれに基づいた第2期「スポーツ基本計画」（2017（平成29）年～）の策定、2020年の東京オリンピック・パラリンピック開催等々によって、「スポーツと健康」に対する国民的関心の増大に疑いの余地は無く、それらを支援し、かつ先導していく学識経験者・研究者の存在があらゆる面で不可欠となっている。そのような社会情勢を踏まえれば，本研究科・博士後期課程の修了生に対しても人材需要が高まっていくことは明らかであるといえる。

まず、ヘルスプロモーション領域については、疾病・傷害に対する予防や治療の問題だけではなく、「健康増進法」（2002（平成14）年）が示すように、国民には生涯にわたって自らの健康状態を自覚するとともに健康の増進に努める義務がある。また、厚生労働省による「健康日本21」では、「身体活動量が多い者や、運動をよく行っている者は、総死亡、虚血性心疾患、高血圧、糖尿病、肥満、骨粗鬆症、結腸がんなどの罹患率や死亡率が低いこと、また、身体活動や運動が、メンタルヘルスや生活の質の改善に効果をもたらすことが認められている」としたうえで、「日常生活における歩数の増加」や「運動習慣者の増加」について具体的な数値目標が示されている。そうした背景には莫大な医療費の支出があり、その解決のためには国家的な取り組みが必要であるからだが、健康の維持・改善のための真に役立つ（例えばメタボの腹囲や適度な運動量に対する）基準データについてもまだまだ研究の余地がある。つまり、ヘルスを課題とする研究者の高度な開発力があってはじめて国家的なプロモーションが為し得るのである。

スポーツマネジメント領域における高度な研究者の人材需要については、以下のようにいえる。まず、「スポーツ環境の整備・充実とそれに伴うマネジメントの必要性」についてである。スポーツ庁が公表している「体力・スポーツに関する世論調査」（2013（平成25）年）では、「スポーツをもっと振興させるために、国や県または市町村に今後力を入れてもらいたいもの」について、「学校体育施設の開放・整備（35.5%）」「各種スポーツ行事・大会・教室の開催（35.4%）」を挙げた者の割合が高い。それと関連し、「総合型地域スポーツクラブ」の全国の設置数は2004（平成16）年の1,117から2014（平成26）年では3,512へと10年間で約3倍に増加している（文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課、総合型地域スポーツクラブの現状と課題、2015（平成27）年）。クラブ設置の効果として、「地域住民のスポーツ参加機会増加」「地域住民間の交流が活性化」に対する評価は高いが、反面において「会員・財源・指導者の確保」が課題の上位に挙げられている。このことは、スポーツ実施のための場（空間）は確保できているが、それを管理・運営するための知識・技能・システムが不十分ということを示している。現場においてマネジメントする人々をさらに支援・指導する高度な研究者の存在が必要となる。また、ます

ます増え続けている各種スポーツによるメガイベントをどうマネジメントするかという課題に対して、俯瞰的な視野と柔軟な思考力をもった高度な研究者が必要となっている。記憶に新しいところでいえば、日本で開催されたラグビーワールドカップ（2019年）である。外国人観光客や日本人の「にわかファン」も含め、相当な観客動員数であったが、台風による被害の最中、一部に中断はあったものの大会試合は続行された。それに対する賛否はあったが、参加選手やスタッフ、そして試合場の約6万人の観客は被害により亡くなった方々への黙祷を捧げた。この出来事は、もはやスポーツは単なる遊びとして個別に存在しているのではなく、現実社会と一体であることを表象していた。2021年には東京オリンピック・パラリンピック競技大会の開催が予定され、その後も世界中でメガイベントを誘致・開催する動きは止まらない。メガイベントは経済、政治、観光、テクノロジー、グローバリゼーションといった様々な視点と結びつくことで膨張を続けるが、このようなスポーツの経済的、社会的な広がりとスポーツ自体の振興を一体化させるためのマネジメントはどうあるべきか、その課題解決を導く高度な研究力がますます求められる時代となっている。

スポーツコーチング領域については、競技力向上と大衆スポーツ普及を役割的には分けて捉える必要があるが、両者を関連づけることのできる人材もまた求められるところであり、その点でスポーツ教育学の高度な研究者も必要となる。競技力向上については、各種スポーツ団体の指導者資格や講習会・研修会、日本スポーツ協会の指導者資格、国立スポーツ科学センター、ナショナルトレーニングセンター等、様々な場でパフォーマンス向上を目的としたコーチングの知識・技能・システムの開発が求められている。また、大衆へのスポーツ普及のためのコーチングについては、例えば、先に挙げた「体力・スポーツに関する世論調査」の「スポーツをもっと振興させるために，国や県または市町村に今後力を入れてもらいたいもの」項目では、「スポーツ指導者の養成（34.9%）」や「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラムの開発普及（33.3%）」が比較的上位に挙げられている。そして、同調査の「望まれる指導者」項目では、「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人（51.9%）」「健康・体力つくりのための運動やスポーツの指導ができる人（40.7%）」が過去の調査結果（2009（平成21）年、2006（平成18）年）から変わらず上位に挙げられている。つまり、スポーツ基本計画（第2期）が目指す「一億総スポーツ社会」を実現するためにも、「何をどう指導するのか」が重要なファクターになるということである。柔軟な思考力をもってコーチングの最先端の理論と研究方法を駆使できる高度な研究者が求められている。

【資料６】「体力・スポーツに関する世論調査」抜粋

【資料７】「総合型地域スポーツクラブの現状と課題」抜粋

イ　本研究科・博士後期課程修了後の想定進路に関する状況

本研究科・博士後期課程修了者の進路については、「設置の趣旨等を記載した書類」に記載したとおり、大学をはじめとする高等教育機関における研究者、国立のスポーツ科学センター（JISS）や栄養研究所等の研究者、自治体や財団あるいは民間産業・企業がスポーツ・健康に関わって管理・運営する種々の組織の研究者・職員等に就くことが想定される。

このうち、大学をはじめとする高等教育機関については、2016（平成28）年度から2020（令和2）年度までの5年間で、2019（令和元）年度を除き、毎年度、スポーツ系の学部・大学院研究科が開設されており、その数は合計20を超え、所属する専任教員も合計400人を超えている。

そして、例えば国立研究開発法人・科学技術振興機構による研究者人材データベース（JRECIN）における募集をみても（募集期間が終了すればデータは消去されるために正確な数字は把握できないものの）、

研究分野→複合領域→健康・スポーツ科学の大学教員の募集では、「博士の学位を有する者」、あるいは「博士の学位を有するか、もしくはそれと同等以上の研究業績を有する者」という条件が近年において目立っている。

また、その点を裏付けるように、文部科学省の「学校基本調査」によれば、「博士課程の『職業別』就職者数（大学教員）」の「保健」分野、「教育」分野における就職者数は表９に示すとおりである。「保健」分野にはスポーツ医学、健康科学、リハビリテーション学、衛生学等、また、「教育」分野には体育学、スポーツ科学、コーチング学、スポーツ・システム等、本研究科で学修する内容が含まれており、2010（平成22）年度と2019（令和元）年度を比較すると、全分野からみた「保健」と「教育」の就職者数の割合は伸びていることがわかる。さらに、「保健」と「教育」の割合を合計すれば、2010（平成22）年度が37.6%、2019（令和元）年度は47.8%となり、約10年間で10%以上伸びていることがわかる。

表９：博士課程の「職業別」就職者数（大学教員）

専攻分野	2010（平成22）年度		2019（令和元）年度	
保健	748人	(33.5%)	992人	(42.1%)
教育	92人	(4.1%)	135人	(5.7%)
全分野	2,235人		2,358人	

※文部科学省「学校基本調査」（卒業後の状況調査　大学院）より。

※全専攻分野は、人文科学、社会科学、理学、工学、農学、保健、家政、教育、芸術、その他の10に分かれている。

前記と同様、文部科学省の「学校基本調査」によれば、博士課程において「保健」および「教育」分野を専攻している「『産業別』就職者数」のうち、本研究科・博士後期課程修了者の就職先に概ね当てはまると想定される「教育・学習支援業」「医療・福祉」「学術・開発研究機関」「公務（国家・地方）」の4区分の2010（平成22）および2019（令和元）年度における就職者数は表１０に示すとおりである。

2010（平成22）年度と2019（令和元）年度を比較すれば、これら4区分ともに就職者数には伸びがみられるが、特に「医療・福祉」、「教育・学習支援業」への就職率が伸びていることがわかる。さらに、2019（令和元）年度における各々の内訳をみれば、「医療・福祉」のうち「医療業，保健衛生」が98.9%、「教育・学習支援業」のうち「学校教育」が98.4%を占めている。後者は先にみたように保健／教育を専攻した博士課程修了者の「大学教員」への就職が上向きとなっていることと合致しており、前者は本研究科・博士後期課程でいう「ヘルスプロモーション」専攻者の就職の可能性が高まっていることを示唆している。

表１０：博士課程の「産業別」就職者数

専攻分野	2010（平成22）年度		2019（令和元）年度	
保健	教育・学習支援業		教育・学習支援業	
	917人／9,812人	(9.3%)	1,154人／10,756人	(10.7%)
	医療・福祉		医療・福祉	
	2,238人／9,812人	(22.8%)	2,974人／10,756人	(27.6%)
	学術研究，専門・技術サービス業		学術研究，専門・技術サービス業	
	210人／9,812人	(2.1%)	239人／10,756人	(2.2%)

	公務（国家・地方） 37人／9,812人 (0.4%)	公務（国家・地方） 51人／10,756人 (0.5%)
教育	教育・学習支援業 143人／9,812人 (1.5%) 医療・福祉 10人／9,812人 (0.1%) 学術研究，専門・技術サービス業 14人／9,812人 (0.1%) 公務（国家・地方） 5人／9,812人 (0.0%)	教育・学習支援業 218人／10,756人 (9.3%) 医療・福祉 9人／10,756人 (0.1%) 学術研究，専門・技術サービス業 17人／10,756人 (0.2%) 公務（国家・地方） 8人／10,756人 (0.1%)
全分野	全産業 9,812人	全産業 10,756人

※文部科学省「学校基本調査」（卒業後の状況調査　大学院）より。

※産業区分は、農業・林業～その他まで20に区分されている。

※全専攻分野は、人文科学、社会科学、理学、工学、農学、保健、家政、教育、芸術、その他の10に分かれている。

※パーセント表示の小数第2位以下は四捨五入。

もちろん、以上のような状況が本研究科・博士後期課程修了者の就職を直ちに保証するものではないが、養成する人材に対する社会的な需要はますます大きくなると予想することができる。

また、本学の附置研究所であるスポーツ研究センターでは、研究業績等に応じて任期付の専任研究員や客員所員として在籍する制度を有しており、ポストドクターとして一定期間の研究活動を継続することも可能である。なお、2020（令和2）年度は専任研究員（講師）1名、客員所員3名が在籍している。

以上から、本研究科・博士後期課程で養成する人材に対する社会的、地域的な需要は大きく、修了生の進路の確保についても問題はないと考える。

【資料８】スポーツ系の学部・研究科の開設状況（2016（平成 28）～2020（令和 2）年度）

以　上

資料目次

（学生の確保の見通し等を記載した書類）

資料１　（株）リクルートマーケティングパートナーズ「進学ブランド力調査２０１９」

資料２　大学院博士後期課程に関するアンケート（修士課程在籍者対象）結果及び調査票

資料３　法政大学大学院博士後期課程研究助成金給付規程

資料４　大学院博士後期課程に関するアンケート（社会人対象）結果及び調査票

資料５　大学院博士後期課程に関するアンケート（他大学修士課程在籍者対象）結果及び調査票

資料６　「体力・スポーツに関する世論調査」（平成２５年１月調査）（文部科学省）

資料７　「総合型地域スポーツクラブの現状と課題」

（平成２７年４月２３日　文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課）

資料８　スポーツ系の学部・研究科の開設状況

（２０１６（平成２８）～２０２０（令和２）年度）

以　上

「進学ブランド力調査2019」（株）リクルートマーケティングパートナーズ

志願度ランキング（関東）

（１）全体

全体

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	1	—	早稲田大学	私	9.7
2	2	—	明治大学	私	9.4
3	3	—	青山学院大学	私	8.4
4	5	↑	立教大学	私	6.5
5	6	↑	法政大学	私	6.0
6	4	↓	日本大学	私	5.4
7	10	↑	東洋大学	私	5.1
8	7	↓	慶應義塾大学	私	4.9
9	9	—	上智大学	私	4.2
10	8	↓	中央大学	私	4.1
11	12	↑	東京理科大学	私	3.4
12	14	↑	首都大学東京	公	3.3
12	11	↓	千葉大学	国	3.3
14	15	↑	駒澤大学	私	3.1
15	13	↓	筑波大学	国	3.0
16	19	↑	北里大学	私	2.9
16	17	↑	専修大学	私	2.9
18	23	↑	明治学院大学	私	2.8
19	21	↑	神奈川大学	私	2.7
19	19	—	芝浦工業大学	私	2.7
19	27	↑	帝京大学	私	2.7
19	21	↑	東京大学	国	2.7

男子

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	2	↑	早稲田大学	私	11.3
2	1	↓	明治大学	私	11.1
3	4	↑	青山学院大学	私	8.1
4	3	↓	日本大学	私	6.7
4	5	↑	法政大学	私	6.7
6	7	↑	慶應義塾大学	私	5.7
7	6	↓	中央大学	私	5.4
7	9	↑	東京理科大学	私	5.4
9	10	↑	東洋大学	私	5.3
10	8	↓	立教大学	私	5.2
11	13	↑	芝浦工業大学	私	4.3
11	18	↑	東京大学	国	4.3
13	12	↓	筑波大学	国	4.1
14	14	—	首都大学東京	公	3.8
15	11	↓	千葉大学	国	3.7
15	14	↓	横浜国立大学	国	3.7
17	21	↑	神奈川大学	私	3.5
17	14	↓	駒澤大学	私	3.5
17	20	↑	上智大学	私	3.5
17	19	↑	専修大学	私	3.5

女子

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	2	↑	青山学院大学	私	8.6
2	1	↓	早稲田大学	私	8.0
3	3	—	立教大学	私	7.9
4	4	—	明治大学	私	7.6
5	7	↑	法政大学	私	5.2
6	6	—	上智大学	私	5.1
7	9	↑	東洋大学	私	4.9
8	13	↑	北里大学	私	4.0
8	8	—	慶應義塾大学	私	4.0
10	5	↓	日本大学	私	3.9
10	11	↑	明治学院大学	私	3.9
12	14	↑	千葉大学	国	2.9
13	15	↑	首都大学東京	公	2.8
14	12	↓	学習院大学	私	2.7
14	9	↓	中央大学	私	2.7
16	21	↑	駒澤大学	私	2.6
17	19	↑	大妻女子大学	私	2.5
17	24	↑	昭和女子大学	私	2.5
17	26	↑	帝京大学	私	2.5
20	32	↑	成蹊大学	私	2.4

（２）文系

文系全体

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	2	↑	早稲田大学	私	14.9
2	1	↓	青山学院大学	私	13.7
3	3	—	明治大学	私	11.1
4	4	—	立教大学	私	9.2
5	5	—	法政大学	私	9.2
6	10	↑	東洋大学	私	8.6
7	7	—	上智大学	私	7.6
8	6	↓	日本大学	私	7.5
9	8	↓	中央大学	私	6.6
10	9	↓	慶應義塾大学	私	6.1
11	11	—	駒澤大学	私	5.9
11	12	↑	専修大学	私	5.1
11	13	↑	明治学院大学	私	5.0
14	13	↓	学習院大学	私	4.3
14	15	↑	國學院大學	私	3.9
16	19	↑	成蹊大学	私	3.6
17	17	—	神奈川大学	私	3.5
18	21	↑	首都大学東京	公	3.4
19	26	↑	桜美林大学	私	3.1
19	19	—	獨協大学	私	3.0

文系男子

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	3	↑	早稲田大学	私	14.9
2	1	↓	明治大学	私	13.7
3	2	↓	青山学院大学	私	11.1
4	5	↑	法政大学	私	9.2
4	6	↑	立教大学	私	9.2
6	9	↑	東洋大学	私	8.6
7	4	↓	日本大学	私	7.6
8	6	↓	中央大学	私	7.5
9	8	↓	慶應義塾大学	私	6.6
10	11	↑	専修大学	私	6.1
11	10	↓	駒澤大学	私	5.9
12	14	↑	國學院大學	私	5.1
13	12	↓	上智大学	私	5.0
14	17	↑	学習院大学	私	4.3
15	15	—	神奈川大学	私	3.9
16	24	↑	成蹊大学	私	3.6
17	16	↓	東京大学	国	3.5
18	19	↑	明治学院大学	私	3.4
19	25	↑	帝京大学	私	3.1
20	13	↓	一橋大学	国	3.0
20	23	↑	横浜国立大学	国	3.0

文系女子

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	1	—	青山学院大学	私	12.6
2	3	↑	立教大学	私	12.5
3	1	↓	早稲田大学	私	10.7
4	4	—	明治大学	私	10.0
5	5	—	上智大学	私	7.3
6	10	↑	東洋大学	私	6.9
6	6	—	法政大学	私	6.9
8	11	↑	明治学院大学	私	5.7
9	7	↓	日本大学	私	4.0
10	12	↑	学習院大学	私	3.9
11	16	↑	成蹊大学	私	3.8
12	8	↓	慶應義塾大学	私	3.7
13	14	↑	駒澤大学	私	3.6
14	20	↑	昭和女子大学	私	3.3
14	13	↓	専修大学	私	3.3
14	9	↓	中央大学	私	3.3
17	17	—	國學院大學	私	3.1
17	17	↓	桜美林大学	私	2.7
18	17	↓	大妻女子大学	私	2.7
20	28	↑	日本女子大学	私	2.6

（３）理系

理系全体

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	2	↑	東京理科大学	私	8.1
2	3	↑	明治大学	私	7.0
3	5	↑	芝浦工業大学	私	6.8
4	4	—	早稲田大学	私	6.7
5	8	↑	北里大学	私	6.3
6	6	—	千葉大学	国	5.7
7	11	↑	慶應義塾大学	私	5.3
8	6	↓	筑波大学	国	5.2
8	9	↑	東京工業大学	国	5.2
8	1	↓	日本大学	私	5.2
11	10	↓	首都大学東京	公	4.8
12	12	—	東京農業大学	私	4.7
13	15	↑	青山学院大学	私	4.6
14	19	↑	東京大学	国	4.2
15	17	↑	埼玉大学	国	3.8
16	13	↓	横浜国立大学	国	3.7
17	21	↑	東京電機大学	私	3.5
18	14	↓	法政大学	私	3.4
19	16	↓	中央大学	私	3.3
20	28	↑	順天堂大学	私	3.1
20	25	↑	帝京大学	私	3.1

理系男子

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	1	—	東京理科大学	私	11.4
2	5	↑	芝浦工業大学	私	9.5
3	3	—	明治大学	私	8.8
4	3	↓	早稲田大学	私	8.2
5	6	↑	東京工業大学	国	7.3
6	7	↑	筑波大学	国	6.5
7	2	↓	日本大学	私	6.1
8	8	—	千葉大学	国	5.8
8	17	↑	東京大学	国	5.8
10	13	↑	青山学院大学	私	5.7
11	13	↑	慶應義塾大学	私	5.6
12	16	↑	東京電機大学	私	5.3
13	10	↓	首都大学東京	公	5.0
14	15	↑	埼玉大学	国	4.9
15	9	↓	横浜国立大学	国	4.7
16	20	↑	東京農業大学	私	4.2
17	11	↓	中央大学	私	3.8
17	11	↓	法政大学	私	3.8
19	30	↑	工学院大学	私	3.5
20	18	↓	北里大学	私	3.4

理系女子

順位	昨年順位		学校名	区分	(%)
1	1	—	北里大学	私	10.6
2	5	↑	千葉大学	国	5.7
3	2	↓	東京農業大学	私	5.6
4	8	↑	慶應義塾大学	私	5.0
4	18	↑	順天堂大学	私	5.0
4	24	↑	帝京大学	私	5.0
7	6	↓	杏林大学	私	4.6
8	8	—	首都大学東京	公	4.4
8	16	↑	星薬科大学	私	4.4
8	4	↓	明治大学	私	4.4
8	12	↑	早稲田大学	私	4.4
12	3	↓	日本大学	私	3.9
13	11	↓	東邦大学	私	3.4
14	8	↓	筑波大学	国	3.2
15	6	↓	東京理科大学	私	3.1
15	16	↑	横浜市立大学	公	3.1
17	38	↑	青山学院大学	私	3.0
17	24	↑	埼玉県立大学	公	3.0
19	29	↑	帝京平成大学	私	2.9
19	29	↑	東京農工大学	国	2.9
19	33	↑	明治薬科大学	私	2.9

出典：「進学ブランド力調査2019」（株）リクルートマーケティングパートナーズ
http://souken.shingakunet.com/college_m/2019_RCM218_04.pdf#page=18

大学院博士課程に関するアンケート調査のお願い（※2018.7＋2019.9 実施結果

大学院博士課程に関するアンケート調査を実施しています。ご回答は匿名で頂き統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にございません。以上の主旨をご理解頂き、率直なご回答とご意見をお寄せいただきますようお願いします。　　法政大学スポーツ健康学研究科

Q1　以下にご回答下さい

1.	性別	1. 男性　**23 名**　　2. 女性　**7 名**
2.	年齢	（　　**25.4**　　）歳　**標準偏差＝6.90**
3.	最終学歴	1. 現在大学院修士課程に在籍中　**100.0%**　　2. 現在大学（短大を除く）に在籍中 3. 大学卒業　　4. 大学院（修士課程）修了　　5. 大学院（博士課程）修了
4.	現在、大学院または大学（短大を除く）に在籍中と回答した方：学年を教えてください。	**法政大学スポーツ健康学研究科** **2018 年度実施　修士課程 1 年生 13 名　2 年生 8 名** **2019 年度実施　修士課程 1 年生　9 名　計３０名**

Q2　あなたは以下の学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. スポーツ健康学系 **88.5%**　2. 体育学系 **65.4%**　3. 教育学系 **34.6%**　4. 心理学系 **30.8%** 5. 政治学・政策学系　6. 経済学系　7. 経営学・商学系　8. 社会学系 **7.7%** 9. 地域研究系　10. 国際関係学系 **3.8%**　11. 生活科学系 **3.8%**　12. 環境・地球資源系 13. 理工系 **3.8%**　14. 医学・歯学・薬学系 **3.8%**　15. 医療・福祉系 **7.7%**　16. 農・畜産・生物系 17. 法学系　18. 人文系（文学・哲学・史学・言語学）**3.8%**　19. 情報系　20. その他

Q3　あなたは以下のスポーツ健康学に関する学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	〔スポーツ医・科学〕 1. スポーツ哲学 **14.8%**　2. スポーツ史　3. スポーツ心理学 **40.7%**　4. スポーツマネジメント **22.2%** 5. スポーツ教育学 **29.6%**　6. トレーニング科学 **48.1%**　7. スポーツバイオメカニクス **33.3%** 8. コーチング **51.9%**　9.スポーツ・タレント **11.1%**　10. 障害者スポーツ **11.1%**　11. スポーツ社会学 **7.4%** 12. スポーツ環境学 **3.7%**　13. スポーツ文化人類学 **3.8%**　14. スポーツ生理学 **14.8%** 15. スポーツ生化学　16. スポーツ栄養学 **18.5%**　17. エネルギー代謝 **14.8%** 18. 運動とトレーニング **44.4%**　19. スポーツ障害 **25.9%**　20. ドーピング **7.4%** 〔健康教育・健康推進活動〕 21. 健康教育 **22.2%**　22. ヘルスプロモーション **25.9%**　23. 安全推進・安全教育 **7.4%** 24. 保健科教育 **22.2%**　25. ストレスマネジメント **22.2%**　26. 喫煙・薬物乱用防止教育 **18.5%** 27. 学校保健 **18.5%**　28. 性・エイズ教育 **7.4%**　29. 保健健康管理 **3.7%**　30. 保健健康情報 **3.7%** 31. 栄養指導 **18.5%**　32. 心身の健康 **25.9%**　33. レジャー・レクリエーション **7.4%** 〔応用健康医学〕 34. 生活習慣病 **22.2%**　35. 運動処方と運動療法 **14.8%**　36. 加齢・老化 **7.4%** 37. スポーツ医学 **25.9%**　38. スポーツ免疫学 **7.4%**

Q4　あなたは以下について興味がありますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	海外の体育スポーツ系の大学院での博士号（Ph.D）の取得　**M=2.63 (SD=1.50)**	1	2	3	4	5
2.	海外の体育スポーツ系以外の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=1.85 (SD=1.01)**	1	2	3	4	5
3.	日本国内の体育スポーツ系の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=3.30 (SD=1.10)**	1	2	3	4	5
4.	日本国内の体育スポーツ系以外の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=1.88 (SD=1.09)**	1	2	3	4	5

→次のページへ進んでください。

Q5　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その理由を教えてください。

1.	興味がある理由としてあてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. 専門的知識をさらに高めたいから **65.2%** 2. さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから **34.8%** 3. これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから **26.1%** 4. より大きな学術的成果を出したいから **17.4%** 5. 大学の教員になりたいから **13.0%** 6. 就職や業務遂行能力の向上に役立つと思うから **17.4%** 7. 専門家として幅広いネットワークを持つことができると思うから **17.4%** 8. スポーツ界の発展に貢献できると思うから **52.2%** 9. スポーツ界に限らず、社会に貢献できると思うから **26.1%** 10. その他 **8.7%** （**今のところ興味がありません。あまり博士課程に興味を持っていないです。**）

Q6　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その時期についてはどのように考えていますか。

1.	最も近いものを一つ選んでください。（〇は一つ）	1. 1 年以内の進学を考えている **4.2%** 2. 3 年以内の進学を考えている **12.5%** 3. 5 年以内の進学を考えている **4.2%** 4. 時期は未定だが、大学院博士課程への進学を考えている **12.5%** 5. 大学院博士課程に興味はあるが、進学するかは分からない **45.8%** 6. 大学院博士課程に進学するつもりはない **20.8%**

Q7　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたはどのように感じますか。

		まったくあてはまらない				おおいにあてはまる
		1	2	3	4	5
1.	あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じる。 **M=3.47 (SD=1.01)**	**6.7%**	**3.3%**	**40.0%**	**36.7%**	**13.3%**
2.	上記（Q7－1）のように感じる理由を教えてください。	（理由） **p. 3 へ**				**50.0%**

Q8　もし法政大学スポーツ健康学研究科博士課程で以下を学ぶことができるとしたら、どれくらい魅力を感じますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	スポーツ・健康に関する高度な専門知識の修得 **M=3.96 (SD=.94)**	1	2	3	4	5
2.	スポーツ・健康に関する高度な理論の修得 **M=4.11 (SD=.84)**	1	2	3	4	5
3.	スポーツ・健康に関する高度な研究方法の修得 **M=3.96 (SD=.85)**	1	2	3	4	5
4.	スポーツ・健康に関する高度な指導方法の修得 **M=3.93 (SD=.87)**	1	2	3	4	5
5.	スポーツ・健康の分野のより高度な研究課題に取り組む能力の開発 **M=3.56 (SD=.93)**	1	2	3	4	5
6.	スポーツ・健康の分野のより高度な実践的課題に取り組む能力の開発 **M=4.04 (SD=.90)**	1	2	3	4	5
7.	スポーツ・健康の特性を活かした連携型の研究プロジェクトの展開 **M=3.48 (SD=.94)**	1	2	3	4	5
8.	スポーツ・健康に関する国際的な研究活動の展開 **M=3.37 (SD=1.15)**	1	2	3	4	5

Q9　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.	法政大学スポーツ健康学研究科博士課程への進学希望（〇は一つ） **M=3.23 (SD=1.19)**	5. 進学してみたいと思う **13.3%** 4. 少し進学してみたいと思う **33.3%**　} **46.6%** 3. どちらともいえない **26.7%** 2. あまり進学したいと思わない **16.7%** 1. 進学したいと思わない **10.0%**

Q10　「Q9で回答した理由」について、どのような内容でも構いませんので、自由にお答えください。

Q9（進学希望）の理由	別紙

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

Q7－2「あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力を感じる」理由（自由回答）－進学希望者の主な意見

- 修士課程を過ごす中で法政の先生方からもっと学ばせていただきたいと思っており、新体操に理解のある環境であることも大きな理由である。
- 大学から博士まであると学部生も行きやすいと感じる。
- 修士から一貫して学ぶことができるため。
- 現在の指導教員に指導を受けたいから。
- 学びたい教員がいる。
- 将来性がありそうだから。
- 健康×スポーツの新たな形だから。
- 経験豊富な先生方の指導を受けたい。
- これまで法政に通ったから。
- 設備や指導教員が充実している。
- スポーツ心理を深く学びたい。
- 自身の能力の客観的証明になる。
- スポ健に頑張ってほしいです。

Q10 もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合の進学希望の理由（自由回答）－進学希望者の主な意見

- 研究、学びという姿勢を持ち続けたい。進学してみなければ出会いない仲間や環境、将来に希望を感じる。何よりも法政大学でかなうのであれば、私の力のあるところもないところも知って頂いているので安心であり、現在の研究の続きを速やかに進められるなどたくさんの利点があるから。
- 一貫した教育により専門性を高めることができると感じる。
- 博士課程に進学を考えているから。
- 現在の指導教員に指導を受けたいから。
- 修士課程修了後に教員になりたいため。
- 高度な指導方法を修得したい。
- 自分にとって環境が良い。
- より専門性を高めたい。
- 専門性をより高めたいという気持ちはある。
- 勉強したいです。
- 法政大学はスポーツ健康学研究科以外との連携を望め、様々な分野を複合した研究に可能性を感じるため。
- スポーツ心理学を深く学び、メンタルトレーニングの指導を確立させたい。
- 博士課程に進むかわからないため。ただ、法政大学に博士課程ができることは選択肢が増えると思う。

大学院博士課程に関するアンケート調査へのお願い

大学院博士課程に関するアンケート調査を実施しています。ご回答は匿名で頂き統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にございません。以上の主旨をご理解頂き、率直なご回答とご意見をお寄せいただきますようお願いします。

法政大学スポーツ健康学研究科

Q1　以下にご回答下さい

1.	性別	1. 男性　　2. 女性	
2.	年齢	(　　)歳	
3.	最終学歴	1. 現在大学院修士課程に在籍中　　2. 現在大学(短大を除く)に在籍中 3. 大学卒業　　4. 大学院(修士課程)修了　　5. 大学院(博士課程)修了	
4.	現在、大学院または大学(短大を除く)に在籍中と回答した方:学年を教えてください。		(　　)年生

Q2　あなたは以下の学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。 (○はいくつでも)	1. スポーツ健康学系　　2. 体育学系　　3. 教育学系　　4. 心理学系 5. 政治学・政策学系　　6. 経済学系　　7. 経営学・商学系　　8. 社会学系 9. 地域研究系　　10. 国際関係学系　　11. 生活科学系　　12. 環境・地球資源系 13. 理工系　　14. 医学・歯学・薬学系　　15. 医療・福祉系　　16. 農・畜産・生物系 17. 法学系　　18. 人文系(文学・哲学・史学・言語学)　　19. 情報系　　20. その他

Q3　あなたは以下のスポーツ健康学に関する学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。 (○はいくつでも)	〔スポーツ科学〕 1. スポーツ哲学　　2. スポーツ史　　3. スポーツ心理学　　4. スポーツマネジメント 5. スポーツ教育学　　6. トレーニング科学　　7. スポーツバイオメカニクス 8. コーチング　　9.スポーツ・タレント　　10. 障害者スポーツ　　11. スポーツ社会学 12. スポーツ環境学　　13. スポーツ文化人類学 〔スポーツ医科学〕 14. スポーツ生理学　　15. スポーツ生化学　　16. スポーツ栄養学 17. エネルギー代謝　　18. 運動とトレーニング　　19. スポーツ障害　　20. ドーピング 〔健康教育・健康推進活動〕 21. 健康教育　　22. ヘルスプロモーション　　23. 安全推進・安全教育 24. 保健科教育　　25. ストレスマネジメント　　26. 喫煙・薬物乱用防止教育 27. 学校保健　　28. 性・エイズ教育　　29. 保健健康管理　　30. 保健健康情報 31. 栄養指導　　32. 心身の健康　　33. レジャー・レクリエーション 〔応用健康医学〕 34. 生活習慣病　　35. 運動処方と運動療法　　36. 加齢・老化　　37. スポーツ医学 38. スポーツ免疫学

Q4　あなたは以下について興味がありますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	海外の体育スポーツ系の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1	2	3	4	5
2.	海外の体育スポーツ系以外の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1	2	3	4	5
3.	日本国内の体育スポーツ系の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1	2	3	4	5
4.	日本国内の体育スポーツ系以外の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1	2	3	4	5

→次のページへ進んでください。

Q5　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その理由を教えてください。

1.	興味がある理由としてあてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. 専門的知識をさらに高めたいから 2. さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから 3. これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから 4. より大きな学術的成果を出したいから 5. 大学の教員になりたいから 6. 就職や業務遂行能力の向上に役立つと思うから 7. 専門家として幅広いネットワークを持つことができると思うから 8. スポーツ界の発展に貢献できると思うから 9. スポーツ界に限らず、社会に貢献できると思うから 10. その他（　　）

Q6　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その時期についてはどのように考えていますか。

1.	最も近いものを一つ選んでください。（〇は一つ）	1. 1 年以内の進学を考えている 2. 3 年以内の進学を考えている 3. 5 年以内の進学を考えている 4. 時期は未定だが、大学院博士後期課程への進学を考えている 5. 大学院博士後期課程に興味はあるが、進学するかは分からない 6. 大学院博士後期課程に進学するつもりはない

Q7　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたはどのように感じますか。

1.	あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得は魅力をとても感じる。	まったくあてはまらない　1　2　3　4　5　おおいにあてはまる
2.	上記（Q7－1）のように感じる理由を教えてください。	（理由）

Q8　もし法政大学スポーツ健康学研究科博士課程で以下を学ぶことができるとしたら、どれくらい魅力を感じますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない　1　2　3　4　5　とても興味がある
1.	スポーツ・健康に関する高度な専門知識の修得	1　2　3　4　5
2.	スポーツ・健康に関する高度な理論の修得	1　2　3　4　5
3.	スポーツ・健康に関する高度な研究方法の修得	1　2　3　4　5
4.	スポーツ・健康に関する高度な指導方法の修得	1　2　3　4　5
5.	スポーツ・健康の分野のより高度な研究課題に取り組む能力の開発	1　2　3　4　5
6.	スポーツ・健康の分野のより高度な実践的課題に取り組む能力の開発	1　2　3　4　5
7.	スポーツ・健康の特性を活かした連携型の研究プロジェクトの展開	1　2　3　4　5
8.	スポーツ・健康に関する国際的な研究活動の展開	1　2　3　4　5

Q9　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.	法政大学スポーツ健康学研究科博士課程への進学希望（〇は一つ）	5. 進学してみたいと思う 4. 少し進学してみたいと思う 3. どちらともいえない 2. あまり進学したいと思わない 1. 進学したいと思わない

Q10 「Q9で回答した理由」について、どのような内容でも構いませんので、自由にお答えください。

Q9（進学希望）の理由	

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

法政大学大学院博士後期課程研究助成金給付規程（2019年4月1日現在）

規定第１２９４号

（目的）

第１条　この規程は，法政大学大学院（以下「本大学院」という。）博士後期課程に在籍する学生を対象に，学術研究を奨励し，高度な研究能力と豊かな学識を有する若手研究者として育成するための修学支援を行う研究助成金（以下，「助成金」という。）の給付に関することについて定める。

（給付対象者）

第２条　助成金の給付対象者は，本大学院博士後期課程に在籍する学生とする。ただし，次の各号に該当する者は除く。

（１）標準修業年限を超えている者　ただし，長期履修制度の適用を受ける者は，入学時に認められた長期履修期間を標準修業年限とする。

（２）休学者

（３）本学給付の補助金等により海外留学する者又は留学中の者

（４）学費を自己支弁していない者（学費が給付される日本政府及び外国政府国費留学生等）

（５）学校法人法政大学に雇用されている専任教員，専任教諭及び専任職員

（標準給付額）

第３条　助成金の標準給付額は，別表のとおりとする。ただし，申請者多数の場合には，１人あたりの給付額を減額する場合がある。

２　前項に関わらず，長期履修制度の適用を受ける者の給付額は，長期履修期間に応じて定められた当該年度の年間授業料と通常授業料の比率により減額する。

３　前項に関わらず，私費外国人留学生で授業料減免制度の適用を受ける者は，私費外国人留学生授業料減免相当額を給付額から減額する。

（給付）

第４条　助成金の給付は採用年度限りとする。ただし，第２条に定める給付対象者に該当する場合は，次年度以降も申請することができる。

（申請方法）

第５条　第２条に定める給付対象者としての資格を有し，助成金の給付を希望する者は，所定の申請書・研究計画書に必要事項を記入し大学院事務部に提出しなければならない。

（決定）

第６条　助成金給付の決定は，研究科教授会等の承認を経て研究科長会議で選考を行い，職務権限規程に基づき決定する。

（取消）

第７条　助成金の給付を受けた者が，助成金を給付された当該年度に，次の各号に該当すると認められた場合には，研究科長会議の議を経て，総長がその資格を取り消すことができる。

（１）休学又は退学若しくは除籍されたとき。

（２）学術研究に専心できないと本学が判断するとき

（３）学費の自己支弁が不要になったとき

（返還）

第８条　助成金は，返還を要しない。ただし，前条の定めにより受給資格を取り消された者は，

既に給付された助成金の全部又は一部を返還しなければならない。

（給付金の辞退）
第９条　給付の決定を受けた者は，助成金の辞退を申し出ることができる。

（規程の改廃）
第１０条　この規程の改廃は，研究科長会議の議を経て，職務権限規程に基づき行うものとする。

（所管）
第１１条　この規程に係る業務は，各キャンパスの大学院担当にて行い，大学院事務部がこれを統括する。

付　則
１　この規程は，２０１９年４月１日より施行する。

別表
標準給付額

研究科	標準給付額
人文科学	300,000円
国際文化	
経済学	
法学	
政治学	
社会学	
経営学	
人間社会	
公共政策	
政策創造	
情報科学	450,000円
デザイン工学	
理工学	

大学院博士課程に関するアンケート調査のお願い（※2019.11 社会人結果

大学院博士課程に関するアンケート調査を実施しています。ご回答は匿名で頂き統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にございません。以上の主旨をご理解頂き、率直なご回答とご意見をお寄せいただきますようお願いします。　　法政大学スポーツ健康学研究科

Q1　以下にご回答下さい

1.	性別	1. 男性　**１３名**　　2. 女性　**２名**
2.	年齢	（　36.6　）歳　**標準偏差＝7.65**
3.	最終学歴	1. 現在大学院修士課程に在籍中　　2. 現在大学（短大を除く）に在籍中 3. 大学卒業　　4. 大学院（修士課程）修了　100%　　5. 大学院（博士課程）修了
4.	あなたは「研究者」になることに関心がありますか。	まったく関心がない　　とても関心がある 1　2　3　4　5 13.3%　40.0%　13.3%　20.0%　20.0%

Q2　あなたは以下の学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. スポーツ健康学系 **86.6%**　2. 体育学系 **33.3%**　3. 教育学系 **20.0%**　4. 心理学系 **20.0%** 5. 政治学・政策学系　6. 経済学系　7. 経営学・商学系 **13.3%**　8. 社会学系 **13.3%** 9. 地域研究系　10. 国際関係学系 **13.3%**　11. 生活科学系　12. 環境・地球資源系 13. 理工系 **6.7%**　14. 医学・歯学・薬学系 **26.7%**　15. 医療・福祉系 **33.3%**　16. 農・畜産・生物系 17. 法学系　18. 人文系（文学・哲学・史学・言語学）　19. 情報系 **6.7%**　20. その他

Q3　あなたは以下のスポーツ健康学に関する学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	〔スポーツ医・科学〕 1. スポーツ哲学　2. スポーツ史 **6.7%**　3. スポーツ心理学 **20.0%**　4. スポーツマネジメント **33.3%** 5. スポーツ教育学 **20.0%**　6. トレーニング科学 **53.3%**　7. スポーツバイオメカニクス **40.0%** 8. コーチング **13.3%**　9.スポーツ・タレント **20.0%**　10. 障害者スポーツ **20.0%**　11. スポーツ社会学 **13.3%** 12. スポーツ環境学 **6.7%**　13. スポーツ文化人類学　14. スポーツ生理学 **20.0%** 15. スポーツ生化学 **6.7%**　16. スポーツ栄養学 **6.7%**　17. エネルギー代謝 **6.7%** 18. 運動とトレーニング **46.7%**　19. スポーツ障害 **66.7%**　20. ドーピング **6.7%** 〔健康教育・健康推進活動〕 21. 健康教育 **13.3%**　22. ヘルスプロモーション **13.3%**　23. 安全推進・安全教育 **6.7%** 24. 保健科教育　25. ストレスマネジメント **26.7%**　26. 喫煙・薬物乱用防止教育 27. 学校保健　28. 性・エイズ教育　29. 保健健康管理　30. 保健健康情報 31. 栄養指導 **6.7%**　32. 心身の健康 **20.0%**　33. レジャー・レクリエーション **6.7%** 〔応用健康医学〕 34. 生活習慣病 **13.3%**　35. 運動処方と運動療法 **20.0%**　36. 加齢・老化 **6.7%** 37. スポーツ医学 **46.7%**　38. スポーツ免疫学 **6.7%**

Q4　あなたは以下について興味がありますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない　　とても興味がある				
1.	海外の体育スポーツ系の大学院での博士号（Ph.D）の取得　**M=2.33 (SD=1.35)**	1	2	3	4	5
2.	海外の体育スポーツ系以外の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=1.93 (SD=1.28)**	1	2	3	4	5
3.	日本国内の体育スポーツ系の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=3.47 (SD=1.41)**	1	2	3	4	5
4.	日本国内の体育スポーツ系以外の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=2.53 (SD=1.30)**	1	2	3	4	5

→次のページへ進んでください。

Q5　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その理由を教えてください。

1.	興味がある理由としてあてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. 専門的知識をさらに高めたいから **66.7%** 2. さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから **33.3%** 3. これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから **60.0%** 4. より大きな学術的成果を出したいから **20.0%** 5. 大学の教員になりたいから **20.0%** 6. 就職や業務遂行能力の向上に役立つと思うから **33.3%** 7. 専門家として幅広いネットワークを持つことができると思うから **20.0%** 8. スポーツ界の発展に貢献できると思うから **33.3%** 9. スポーツ界に限らず、社会に貢献できると思うから **20.0%** 10. その他 **0.0%**

Q6　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その時期についてはどのように考えていますか。

1.	最も近いものを一つ選んでください。（〇は一つ）	1. 1 年以内の進学を考えている **0.0%** 2. 3 年以内の進学を考えている **13.3%** 3. 5 年以内の進学を考えている **0.0%** 4. 時期は未定だが、大学院博士課程への進学を考えている **20.0%** 5. 大学院博士課程に興味はあるが、進学するかは分からない **46.7%** 6. 大学院博士課程に進学するつもりはない **20.0%**

Q7　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたはどのように感じますか。

		まったくあてはまらない				おおいにあてはまる
		1	2	3	4	5
1.	あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じる。 **M=3.47 (SD=1.36)**	**6.7%**	**20.0%**	**26.7%**	**13.3%**	**33.3%**
						46.6%

Q8　もし法政大学スポーツ健康学研究科博士課程で以下を学ぶことができるとしたら、どれくらい魅力を感じますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	スポーツ・健康に関する高度な専門知識の修得 **M=4.27 (SD=.80)**	1	2	3	4	5
2.	スポーツ・健康に関する高度な理論の修得 **M=4.01 (SD=1.10)**	1	2	3	4	5
3.	スポーツ・健康に関する高度な研究方法の修得 **M=3.80 (SD=1.08)**	1	2	3	4	5
4.	スポーツ・健康に関する高度な指導方法の修得 **M=3.33 (SD=1.29)**	1	2	3	4	5
5.	スポーツ・健康の分野のより高度な研究課題に取り組む能力の開発 **M=3.53 (SD=1.30)**	1	2	3	4	5
6.	スポーツ・健康の分野のより高度な実践的課題に取り組む能力の開発 **M=3.73 (SD=1.28)**	1	2	3	4	5
7.	スポーツ・健康の特性を活かした連携型の研究プロジェクトの展開 **M=3.50 (SD=1.40)**	1	2	3	4	5
8.	スポーツ・健康に関する国際的な研究活動の展開 **M=3.67 (SD=1.35)**	1	2	3	4	5

Q9　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.	法政大学スポーツ健康学研究科博士課程への進学希望（〇は一つ） **M=2.93 (SD=1.22)**	5. 進学してみたいと思う **13.3%** 4. 条件が合えば進学してみたいと思う **33.3%** 3. どちらともいえない **20.0%** 2. あまり進学したいと思わない **26.7%** 1. 進学したいと思わない **6.7%**

Q10　「Q9で回答した理由」について、どのような内容でも構いませんので、自由にお答えください。

Q9（進学希望）の理由	別紙

Q9（進学希望）の理由（15 名中 3 名は無回答）−進学希望者の主な意見

「進学してみたいと思う」と回答した者
・高度で専門的な教員のもとで研究の実績を積み、広く社会に貢献できる素地をつくりたいから。
・最先端のスポーツマネジメントを習得し、研究者として持続的な社会貢献を行い、スポーツ界へ寄与する人材になりたい。

「条件が合えば進学してみたいと思う」と回答した者
・興味はあるものの、職場の理解、業務量により状況は変わる。
・進学に興味がある。
・条件が合えばだが、博士課程に興味はある。
・自立して学べる雰囲気がある。指導教員の人柄が魅力的、勤務先から近い。
・教授陣が魅力的である。博士課程の先進的な研究に期待できる。

大学院博士課程に関するアンケート調査のお願い

大学院博士課程に関するアンケート調査を実施しています。ご回答は匿名で頂き統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にございません。以上の主旨をご理解頂き、率直なご回答とご意見をお寄せいただきますようお願いします。

法政大学スポーツ健康学研究科

Q1　以下にご回答下さい

1.	性別	1. 男性　　2. 女性
2.	年齢	(　　)歳
3.	最終学歴	1. 現在大学院修士課程に在籍中(　　)年生　2. 現在大学に在籍中(　　)年生 3. 大学卒業　　4. 大学院(修士課程)修了　　5. 大学院(博士課程)修了
4.	あなたは「研究者」になることに関心がありますか。	まったく関心がない　　とても関心がある 1　2　3　4　5

Q2　あなたは以下の学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。 (○はいくつでも)	1. スポーツ健康学系　2. 体育学系　3. 教育学系　4. 心理学系 5. 政治学・政策学系　6. 経済学系　7. 経営学・商学系　8. 社会学系 9. 地域研究系　10. 国際関係学系　11. 生活科学系　12. 環境・地球資源系 13. 理工系　14. 医学・歯学・薬学系　15. 医療・福祉系　16. 農・畜産・生物系 17. 法学系　18. 人文系(文学・哲学・史学・言語学)　19. 情報系　20. その他

Q3　あなたは以下のスポーツ健康学に関する学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。 (○はいくつでも)	〔スポーツ医・科学〕 1. スポーツ哲学　2. スポーツ史　3. スポーツ心理学　4. スポーツマネジメント 5. スポーツ教育学　6. トレーニング科学　7. スポーツバイオメカニクス 8. コーチング　9.スポーツ・タレント　10. 障害者スポーツ　11. スポーツ社会学 12. スポーツ環境学　13. スポーツ文化人類学　14. スポーツ生理学 15. スポーツ生化学　16. スポーツ栄養学　17. エネルギー代謝 18. 運動とトレーニング　19. スポーツ障害　20. ドーピング 〔健康教育・健康推進活動〕 21. 健康教育　22. ヘルスプロモーション　23. 安全推進・安全教育 24. 保健科教育　25. ストレスマネジメント　26. 喫煙・薬物乱用防止教育 27. 学校保健　28. 性・エイズ教育　29. 保健健康管理　30. 保健健康情報 31. 栄養指導　32. 心身の健康　33. レジャー・レクリエーション 〔応用健康医学〕 34. 生活習慣病　35. 運動処方と運動療法　36. 加齢・老化 37. スポーツ医学　38. スポーツ免疫学

Q4　あなたは以下について興味がありますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない　とても興味がある
1.	海外の体育スポーツ系の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5
2.	海外の体育スポーツ系以外の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5
3.	日本国内の体育スポーツ系の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5
4.	日本国内の体育スポーツ系以外の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5

→次のページへ進んでください。

Q5　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その理由を教えてください。

1.	興味がある理由としてあてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. 専門的知識をさらに高めたいから 2. さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから 3. これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから 4. より大きな学術的成果を出したいから 5. 大学の教員になりたいから 6. 就職や業務遂行能力の向上に役立つと思うから 7. 専門家として幅広いネットワークを持つことができると思うから 8. スポーツ界の発展に貢献できると思うから 9. スポーツ界に限らず、社会に貢献できると思うから 10. その他　（　　）

Q6　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その時期についてはどのように考えていますか。

1.	最も近いものを一つ選んでください。（〇は一つ）	1. 1 年以内の進学を考えている 2. 3 年以内の進学を考えている 3. 5 年以内の進学を考えている 4. 時期は未定だが、大学院博士課程への進学を考えている 5. 大学院博士課程に興味はあるが、進学するかは分からない 6. 大学院博士課程に進学するつもりはない

Q7　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたはどのように感じますか。

		まったくあてはまらない				おおいにあてはまる
1.	あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じる。	1	2	3	4	5

Q8　もし法政大学スポーツ健康学研究科博士課程で以下を学ぶことができるとしたら、どれくらい魅力を感じますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	スポーツ・健康に関する高度な専門知識の修得	1	2	3	4	5
2.	スポーツ・健康に関する高度な理論の修得	1	2	3	4	5
3.	スポーツ・健康に関する高度な研究方法の修得	1	2	3	4	5
4.	スポーツ・健康に関する高度な指導方法の修得	1	2	3	4	5
5.	スポーツ・健康の分野のより高度な研究課題に取り組む能力の開発	1	2	3	4	5
6.	スポーツ・健康の分野のより高度な実践的課題に取り組む能力の開発	1	2	3	4	5
7.	スポーツ・健康の特性を活かした連携型の研究プロジェクトの展開	1	2	3	4	5
8.	スポーツ・健康に関する国際的な研究活動の展開	1	2	3	4	5

Q9　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.	法政大学スポーツ健康学研究科博士課程への進学希望（〇は一つ）	5. 進学してみたいと思う 4. 条件が合えば進学してみたいと思う 3. どちらともいえない 2. あまり進学したいと思わない 1. 進学したいと思わない

Q10 「Q9で回答した理由」について、どのような内容でも構いませんので、自由にお答えください。

Q9（進学希望）の理由	

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

大学院博士課程に関するアンケート調査のお願い（※2020.1 他大学結果

大学院博士課程に関するアンケート調査を実施しています。ご回答は匿名で頂き統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にございません。以上の主旨をご理解頂き、率直なご回答とご意見をお寄せいただきますようお願いします。　　法政大学スポーツ健康学研究科

Q1　以下にご回答下さい

1.	性別	1. 男性　**7名**　　2. 女性　**2名**
2.	年齢	（　**23.5**　）歳　**標準偏差＝0.7440**
3.	最終学歴	1. 現在大学院修士課程に在籍中　100%　　2. 現在大学（短大を除く）に在籍中 3. 大学卒業　　4. 大学院（修士課程）修了　　5. 大学院（博士課程）修了
4.	あなたは「研究者」になることに関心がありますか。	まったく関心がない　　とても関心がある 1　2　3　4　5 **22.2%　11.1%　33.3%　11.1%　22.2%**

Q2　あなたは以下の学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. スポーツ健康学系 **55.6%**　2. 体育学系 **33.3%**　3. 教育学 **66.6%**　4. 心理学系 **33.3%** 5. 政治学・政策学系 **22.2%**　6. 経済学系　7. 経営学・商学系 **11.1%**　8. 社会学系 **33.3%** 9. 地域研究系　10. 国際関係学系　11. 生活科学系　12. 環境・地球資源系　13. 理工系　14. 医学・歯学・薬学系 **11.1%**　15. 医療・福祉系 **11.1%**　16. 農・畜産・生物系 17. 法学系　18. 人文系（文学・哲学・史学・言語学）　19. 情報系 **6.7%**　20. その他

Q3　あなたは以下のスポーツ健康学に関する学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	〔スポーツ医・科学〕 1. スポーツ哲学 **22.2%**　2. スポーツ史 **22.2%**　3. スポーツ心理学 **33.3%**　4. スポーツマネジメント **44.4%** 5. スポーツ教育学 **55.6%**　6. トレーニング科学 **33.3%**　7. スポーツバイオメカニクス 8. コーチング **55.6%**　9.スポーツ・タレント **22.2%**　10. 障害者スポーツ **33.3%**　11. スポーツ社会学 **33.3%** 12. スポーツ環境学 **11.1%**　13. スポーツ文化人類学　14. スポーツ生理学 **22.2%** 15. スポーツ生化学 **22.2%**　16. スポーツ栄養学 **44.4%**　17. エネルギー代謝 **22.2%** 18. 運動とトレーニング **22.2%**　19. スポーツ障害 **11.1%**　20. ドーピング 〔健康教育・健康推進活動〕 21. 健康教育 **33.3%**　22. ヘルスプロモーション **22.2%**　23. 安全推進・安全教育 24. 保健科教育 **33.3%**　25. ストレスマネジメント　26. 喫煙・薬物乱用防止教育 27. 学校保健 **22.2%**　28. 性・エイズ教育　29. 保健健康管理 **11.1%**　30. 保健健康情報 31. 栄養指導　32. 心身の健康 **33.3%**　33. レジャー・レクリエーション **11.1%** 〔応用健康医学〕 34. 生活習慣病　35. 運動処方と運動療法 **33.3%**　36. 加齢・老化 **11.1%** 37. スポーツ医学 **11.1%**　38. スポーツ免疫学

Q4　あなたは以下について興味がありますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない　とても興味がある				
1.	海外の体育スポーツ系の大学院での博士号（Ph.D）の取得　**M=2.11 (SD=1.54)**	1	2	3	4	5
2.	海外の体育スポーツ系以外の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=1.67 (SD=1.12)**	1	2	3	4	5
3.	日本国内の体育スポーツ系の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=2.22 (SD=1.56)**	1	2	3	4	5
4.	日本国内の体育スポーツ系以外の大学院での博士号（Ph.D）の取得 **M=2.00 (SD=1.58)**	1	2	3	4	5

→次のページへ進んでください。

Q5　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その理由を教えてください。

1.	興味がある理由としてあてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. 専門的知識をさらに高めたいから **33.3%** 2. さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから **33.3%** 3. これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから **22.2%** 4. より大きな学術的成果を出したいから **11.1%** 5. 大学の教員になりたいから **20.0%** 6. 就職や業務遂行能力の向上に役立つと思うから **22.2%** 7. 専門家として幅広いネットワークを持つことができると思うから **22.2%** 8. スポーツ界の発展に貢献できると思うから **33.3%** 9. スポーツ界に限らず、社会に貢献できると思うから **11.1%** 10. その他 **0.0%**

Q6　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その時期についてはどのように考えていますか。

1.	最も近いものを一つ選んでください。（〇は一つ）	1. 1 年以内の進学を考えている **11.1%** 2. 3 年以内の進学を考えている **11.1%** 3. 5 年以内の進学を考えている **11.1%** 4. 時期は未定だが、大学院博士課程への進学を考えている **0.0%** 5. 大学院博士課程に興味はあるが、進学するかは分からない **11.1%** 6. 大学院博士課程に進学するつもりはない **66.7%**

Q7　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたはどのように感じますか。

		まったくあてはまらない				おおいにあてはまる
		1	2	3	4	5
1.	あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じる。 **M=2.44 (SD=1.33)**	**33.3%**	**11.1%**	**44.4%**	**0.0%**	**11.1%**

Q8　もし法政大学スポーツ健康学研究科博士課程で以下を学ぶことができるとしたら、どれくらい魅力を感じますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	スポーツ・健康に関する高度な専門知識の修得 **M=2.56 (SD=1.59)**	1	2	3	4	5
2.	スポーツ・健康に関する高度な理論の修得 **M=2.67 (SD=1.66)**	1	2	3	4	5
3.	スポーツ・健康に関する高度な研究方法の修得 **M=2.56 (SD=1.59)**	1	2	3	4	5
4.	スポーツ・健康に関する高度な指導方法の修得 **M=2.67 (SD=1.73)**	1	2	3	4	5
5.	スポーツ・健康の分野のより高度な研究課題に取り組む能力の開発 **M=2.67 (SD=1.66)**	1	2	3	4	5
6.	スポーツ・健康の分野のより高度な実践的課題に取り組む能力の開発 **M=2.67 (SD=1.73)**	1	2	3	4	5
7.	スポーツ・健康の特性を活かした連携型の研究プロジェクトの展開 **M=2.89 (SD=1.83)**	1	2	3	4	5
8.	スポーツ・健康に関する国際的な研究活動の展開 **M=2.67 (SD=1.73)**	1	2	3	4	5

Q9　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.	法政大学スポーツ健康学研究科博士課程への進学希望（〇は一つ）　**M=2.93 (SD=1.22)**	5. 進学してみたいと思う **0.0%** 4. 条件が合えば進学してみたいと思う **22.2%** 3. どちらともいえない **22.2%** 2. あまり進学したいと思わない **22.2%** 1. 進学したいと思わない **33.3%**

Q10　「Q9で回答した理由」について、どのような内容でも構いませんので、自由にお答えください。

Q9（進学希望）の理由	別紙

Q9（進学希望）の理由（9 名中 1 名は無回答）

「条件が合えば進学してみたいと思う」と回答した者
・働きながらでも大丈夫であれば。
・領域と教員による。

「どちらともいえない」
・興味のある研究室があるか不明のため。
・条件が合えば考えてみたい。

「あまり進学したいと思わない」と回答した者
・進学を考えていないため。

「進学したいと思わない」と回答した者
・教員志望であるため。
・学校現場で働きたいと考えている。
・博士課程に興味が無いため。

大学院博士課程に関するアンケート調査のお願い

大学院博士課程に関するアンケート調査を実施しています。ご回答は匿名で頂き統計的に処理しますので、ご迷惑をおかけすることは絶対にございません。以上の主旨をご理解頂き、率直なご回答とご意見をお寄せいただきますようお願いします。

法政大学スポーツ健康学研究科

Q1　以下にご回答下さい

1.	性別	1. 男性　　2. 女性
2.	年齢	(　　)歳
3.	最終学歴	1. 現在大学院修士課程に在籍中(　　)年生　2. 現在大学に在籍中(　　)年生 3. 大学卒業　　4. 大学院(修士課程)修了　　5. 大学院(博士課程)修了
4.	あなたは「研究者」になることに関心がありますか。	まったく関心がない　　とても関心がある 1　2　3　4　5

Q2　あなたは以下の学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。 (○はいくつでも)	1. スポーツ健康学系　2. 体育学系　3. 教育学系　4. 心理学系 5. 政治学・政策学系　6. 経済学系　7. 経営学・商学系　8. 社会学系 9. 地域研究系　10. 国際関係学系　11. 生活科学系　12. 環境・地球資源系 13. 理工系　14. 医学・歯学・薬学系　15. 医療・福祉系　16. 農・畜産・生物系 17. 法学系　18. 人文系(文学・哲学・史学・言語学)　19. 情報系　20. その他

Q3　あなたは以下のスポーツ健康学に関する学習分野のうち、どれに興味がありますか。

1.	あてはまるものを「すべて」選んでください。 (○はいくつでも)	〔スポーツ医・科学〕 1. スポーツ哲学　2. スポーツ史　3. スポーツ心理学　4. スポーツマネジメント 5. スポーツ教育学　6. トレーニング科学　7. スポーツバイオメカニクス 8. コーチング　9.スポーツ・タレント　10. 障害者スポーツ　11. スポーツ社会学 12. スポーツ環境学　13. スポーツ文化人類学　14. スポーツ生理学 15. スポーツ生化学　16. スポーツ栄養学　17. エネルギー代謝 18. 運動とトレーニング　19. スポーツ障害　20. ドーピング 〔健康教育・健康推進活動〕 21. 健康教育　22. ヘルスプロモーション　23. 安全推進・安全教育 24. 保健科教育　25. ストレスマネジメント　26. 喫煙・薬物乱用防止教育 27. 学校保健　28. 性・エイズ教育　29. 保健健康管理　30. 保健健康情報 31. 栄養指導　32. 心身の健康　33. レジャー・レクリエーション 〔応用健康医学〕 34. 生活習慣病　35. 運動処方と運動療法　36. 加齢・老化 37. スポーツ医学　38. スポーツ免疫学

Q4　あなたは以下について興味がありますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない　とても興味がある
1.	海外の体育スポーツ系の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5
2.	海外の体育スポーツ系以外の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5
3.	日本国内の体育スポーツ系の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5
4.	日本国内の体育スポーツ系以外の大学院での博士号(Ph.D)の取得	1　2　3　4　5

→次のページへ進んでください。

Q5　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その理由を教えてください。

1.	興味がある理由としてあてはまるものを「すべて」選んでください。（〇はいくつでも）	1. 専門的知識をさらに高めたいから 2. さらに高度で先進的な研究に取り組みたいから 3. これまでの実践的活動で培った経験を理論的に整理し、確立したいから 4. より大きな学術的成果を出したいから 5. 大学の教員になりたいから 6. 就職や業務遂行能力の向上に役立つと思うから 7. 専門家として幅広いネットワークを持つことができると思うから 8. スポーツ界の発展に貢献できると思うから 9. スポーツ界に限らず、社会に貢献できると思うから 10. その他　（　　）

Q6　あなたが大学院博士課程進学に興味があれば、その時期についてはどのように考えていますか。

1.	最も近いものを一つ選んでください。（〇は一つ）	1. 1 年以内の進学を考えている 2. 3 年以内の進学を考えている 3. 5 年以内の進学を考えている 4. 時期は未定だが、大学院博士課程への進学を考えている 5. 大学院博士課程に興味はあるが、進学するかは分からない 6. 大学院博士課程に進学するつもりはない

Q7　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたはどのように感じますか。

		まったくあてはまらない				おおいにあてはまる
1.	あなたは法政大学スポーツ健康学研究科博士課程での博士号取得に魅力をとても感じる。	1	2	3	4	5

Q8　もし法政大学スポーツ健康学研究科博士課程で以下を学ぶことができるとしたら、どれくらい魅力を感じますか。それぞれについて最もあてはまるものを1つ選んでください。

		まったく興味がない				とても興味がある
1.	スポーツ・健康に関する高度な専門知識の修得	1	2	3	4	5
2.	スポーツ・健康に関する高度な理論の修得	1	2	3	4	5
3.	スポーツ・健康に関する高度な研究方法の修得	1	2	3	4	5
4.	スポーツ・健康に関する高度な指導方法の修得	1	2	3	4	5
5.	スポーツ・健康の分野のより高度な研究課題に取り組む能力の開発	1	2	3	4	5
6.	スポーツ・健康の分野のより高度な実践的課題に取り組む能力の開発	1	2	3	4	5
7.	スポーツ・健康の特性を活かした連携型の研究プロジェクトの展開	1	2	3	4	5
8.	スポーツ・健康に関する国際的な研究活動の展開	1	2	3	4	5

Q9　もし法政大学スポーツ健康学研究科に博士課程が新設された場合、あなたは進学したいと思いますか。あてはまるものを1つ選んでください。

1.	法政大学スポーツ健康学研究科博士課程への進学希望（〇は一つ）	5. 進学してみたいと思う 4. 条件が合えば進学してみたいと思う 3. どちらともいえない 2. あまり進学したいと思わない 1. 進学したいと思わない

Q10 「Q9で回答した理由」について、どのような内容でも構いませんので、自由にお答えください。

Q9（進学希望）の理由	

以上で質問は終わりです。ご協力ありがとうございました。

「体力・スポーツに関する世論調査」(平成 25 年　スポーツ庁)抜粋

5　スポーツ振興についての要望

（1）スポーツ振興についての国や地方公共団体への要望

スポーツをもっと振興させるために，国や県または市町村に今後どのようなことに力を入れてもらいたいと思うか聞いたところ，力を入れてもらいたいことについて何らかの選択肢を挙げた者（以下，『「力を入れてもらいたいものがある」とする者』という。）の割合が 92.2%，「力を入れてもらいたいものはない」と答えた者の割合が 3.7%となっている。

前回の調査結果と比較して見ると，「力を入れてもらいたいものがある」（90.3%→92.2%）とする者の割合が上昇し，「力を入れてもらいたいものはない」（5.0%→3.7%）と答えた者の割合が低下している。

都市規模別に見ると，「力を入れてもらいたいものがある」とする者の割合は大都市で高くなっている。

性別に見ると，大きな差異は見られない。

年齢別に見ると，「力を入れてもらいたいものがある」とする者の割合は 20 歳代から 50 歳代で，「力を入れてもらいたいものはない」と答えた者の割合は 70 歳以上で，それぞれ高くなっている。

次に，スポーツをもっと振興させるために，国や県または市町村に今後力を入れてもらいたいものについては，「学校体育施設の開放・整備」を挙げた者の割合が 35.5%と最も高く，以下，「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」（35.4%），「スポーツ指導者の養成」（34.9%），「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラムの開発普及」（33.3%）などの順となっている。（複数回答，上位４項目）

前回の調査結果と比較して見ると，「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラムの開発普及」（37.2%→33.3%），を挙げた者の割合が低下している。

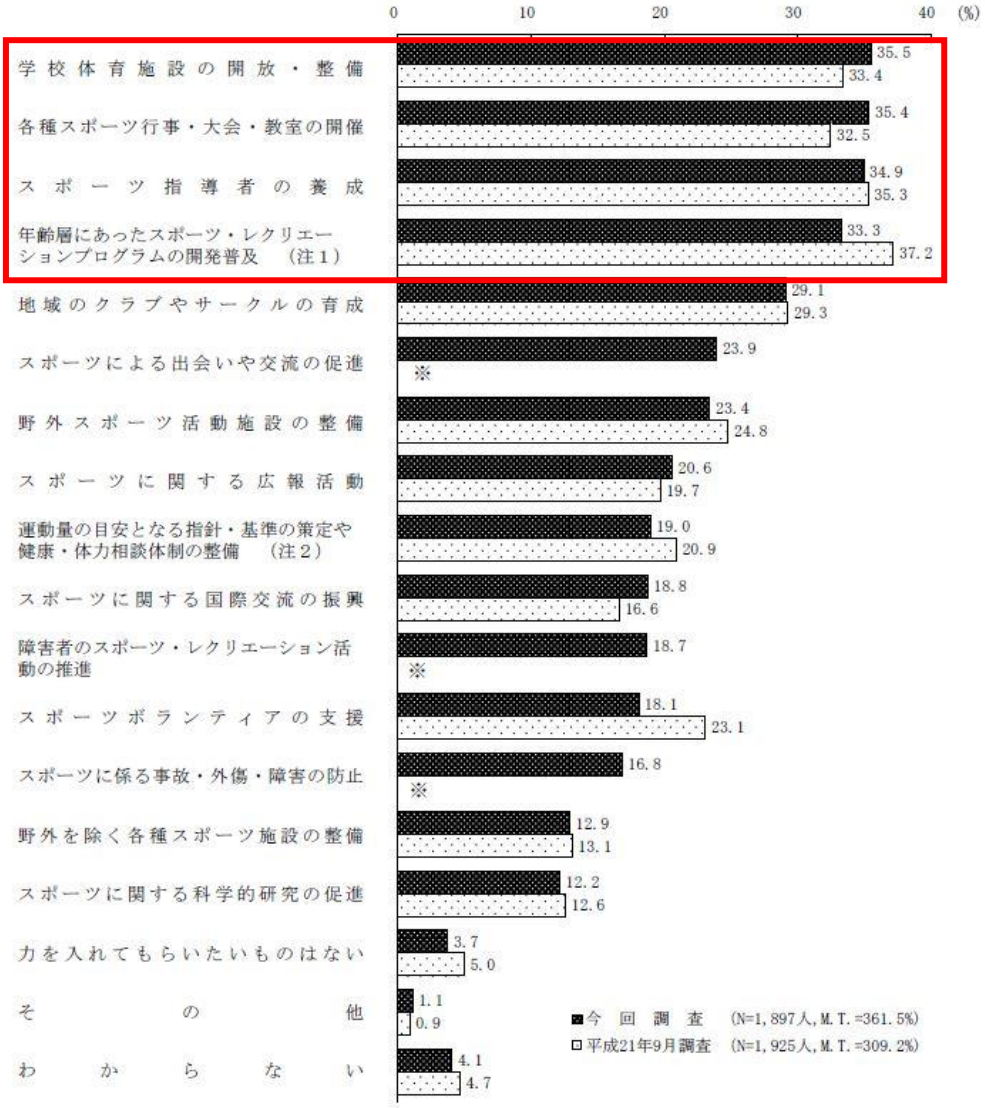
都市規模別に見ると，「学校体育施設の開放・整備」を挙げた者の割合は中都市で高くなっている。

性別に見ると，「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラムの開発普及」を挙げた者の割合は女性で高くなっている。

年齢別に見ると，「学校体育施設の開放・整備」を挙げた者の割合は 20 歳代から 40 歳代で，「各種スポーツ行事・大会・教室の開催」を挙げた者の割合は 30 歳代で，「年齢層にあったスポーツ・レクリエーションプログラムの開発普及」を挙げた者の割合は 50 歳代，70 歳以上で，それぞれ高くなっている。　（図 26，表 26－１，表 26－２）

図 26　スポーツ振興についての国や地方公共団体への要望

（複数回答）



（注１）平成21年９月調査では，「年齢層にあったスポーツの開発普及」となっている。
（注２）平成21年９月調査では，「公共スポーツ施設における健康・体力相談体制の整備」となっている。

（3）望まれるスポーツ指導者

運動やスポーツを行うにあたって，どのようなスポーツ指導者が必要だと思うか聞いたところ，「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」を挙げた者の割合が 51.9%と最も高く，以下，「健康・体力つくりのための運動やスポーツの指導ができる人」（40.7%），「年間を通して定期的に指導ができる人」（25.6%），「障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人」（21.0%）などの順となっている。（複数回答，上位４項目）

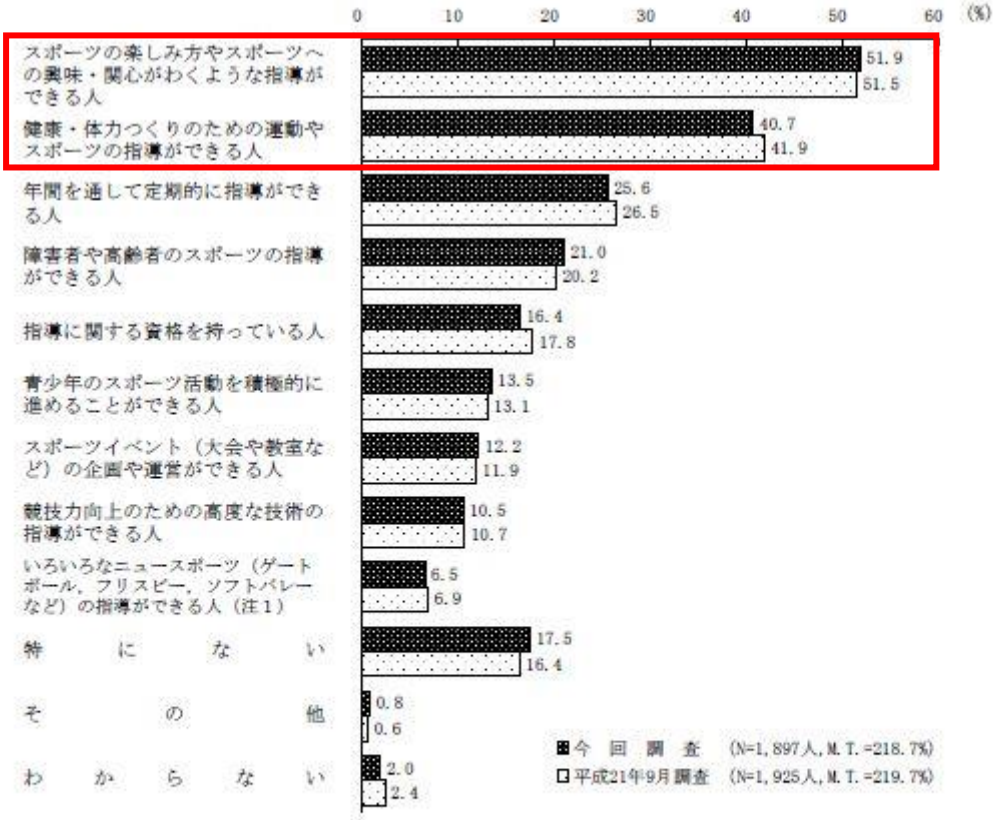
前回の調査結果と比較して見ると，大きな変化は見られない。

都市規模別に見ると，「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」を挙げた者の割合は中都市で高くなっている。

性別に見ると，「健康・体力つくりのための運動やスポーツの指導ができる人」を挙げた者の割合は女性で高くなっている。

年齢別に見ると，「スポーツの楽しみ方やスポーツへの興味・関心がわくような指導ができる人」を挙げた者の割合は 20 歳代から 40 歳代で，「健康・体力つくりのための運動やスポーツの指導ができる人」を挙げた者の割合は 30 歳代から 50 歳代で，「障害者や高齢者のスポーツの指導ができる人」，「年間を通して定期的に指導ができる人」を挙げた者の割合は 50 歳代で，それぞれ高くなっている。（図９，表９－１，表９－２）

図９　望まれるスポーツ指導者　（複数回答）



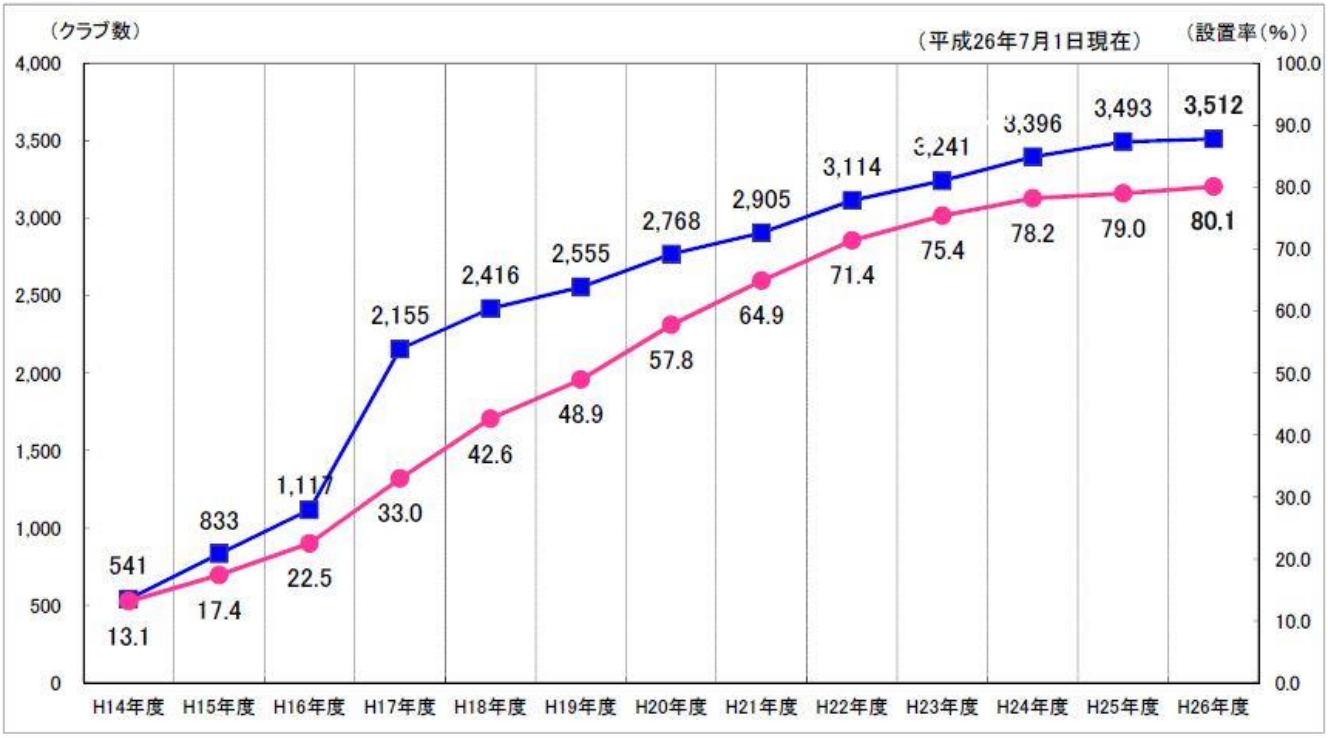
（注１）平成21年９月調査では，「いろいろなニュースポーツ（ゲートボール，フリスビー，ソフトバレーなど）の指導ができる人」となっている。

「総合型地域スポーツクラブの現状と課題」（平成 27 年 4 月 23 日　文部科学省スポーツ・青少年局スポーツ振興課）抜粋

総合型地域スポーツクラブ設置状況

→ 全国に3，512クラブ設置

→ 全国の市区町村の80．1％に設置



（注）総合型地域スポーツクラブ数については、創設準備中を含む

（出典）文部科学省「平成26年度総合型地域スポーツクラブ育成状況調査」

3

スポーツ系の学部・研究科の開設状況（2016（平成28）～2020（令和2）年度）

No.	開設時期	大学等	学部・研究科	学科・専攻	入学定員	専任教員数
1	2020年度 （令和2年度）	駿河台大学	スポーツ科学部	スポーツ科学科	200	26
2		広島国際大学	健康スポーツ学部	健康スポーツ学科	70	9
3	2018年度 （平成30年度）	広島文化学園大学	人間健康学部	スポーツ健康福祉学科	120	19
4		九州産業大学	人間科学部	スポーツ健康科学科	80	14
5		九州共立大学大学院	スポーツ学研究科	スポーツ学専攻	5	20
6		日本ウェルネススポーツ大学	スポーツプロモーション学部	スポーツプロモーション学科	75	24
7		日本体育大学	スポーツマネジメント学部	スポーツマネジメント学科	145	14
8				スポーツライフマネジメント学科	110	12
9		東洋大学大学院	ライフデザイン学研究科	健康スポーツ学専攻	10	12
10	2017年度 （平成29年度）	平成国際大学	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	100	15
11		中部学院大学	スポーツ健康科学部	スポーツ健康科学科	80	15
12		日本福祉大学	スポーツ科学部	スポーツ科学科	180	23
13		久留米大学	人間健康学部	スポーツ医科学科	70	12
14		仙台大学	体育学部	子ども運動教育学科	40	12
15		流通経済大学	スポーツ健康科学部	スポーツコミュニケーショ□学科	100	36
16		朝日大学	保健医療学部	健康スポーツ科学科	120	23
17		日本体育大学	スポーツ文化学部	武道教育学科	100	11
18				スポーツ国際学科	100	10
19		京都産業大学	現代社会学部	健康スポーツ社会学科	100	12
20		大阪産業大学	スポーツ健康学部	スポーツ健康学科	150	17
21	2016年度 （平成28年度）	日本大学	スポーツ科学部	競技スポーツ学科	300	20
22		山梨学院大学	スポーツ科学部	スポーツ科学科	170	24
23		大阪成蹊大学	マネジメント学部 （2020年4月より経営学部）	スポーツマネジメント学科	90	12
24		札幌国際大学大学院	スポーツ健康指導研究科	スポーツ健康指導専攻	5	9
－	合計					401

※　文部科学省ウェブサイト（学部等設置認可申請書類）及び各大学ウェブサイトの公開情報をもとに作成した。

※　教員数は2020年5月1日又は2019年5月1日時点の内容。ただし、No.7,8,13,16,17,21は、学科・専攻別の教員数不明のため設置認可申請時の基本計画書より抜粋した。

教　　員　　名　　簿

学　　長　　の　　氏　　名　　等						
調書番号	役職名	フリガナ 氏名 ＜就任(予定)年月＞	年齢	保有学位等	月額基本給（千円）	現　職 （就任年月）
―	学長	ﾀﾅｶ　ﾕｳｺ 田中　優子 ＜平成26年4月1日＞		文学修士※		法政大学　総長 （平成26.4～令和3.3）